平成２５年
埼玉県の人口動態概況
（確定数）

平成２６年１１月

埼玉県保健医療部保健医療政策課

目　　次

１　人口動態の概況 ……………………………………………………… １
２　各　　論 ……………………………………………………… ２
（１）出　　生 ……………………………………………………… ２
（２）死　　亡 ……………………………………………………… ９
（３）乳児死亡及び新生児死亡 ………………………………………２４
（４）自然増減 ………………………………………………………２５
（５）死　　産 ………………………………………………………２８
（６）周産期死亡 ……………………………………………………２９
（７）婚　　姻 ………………………………………………………３０
（８）離　　婚 ………………………………………………………３２
（９）合計特殊出生率 …………………………………………………３３

巻末（統計資料）

第１表　人口動態の年次推移（埼玉県）………………………………３５
第２表　〃　（全　国）………………………………………………３７
第３表　人口動態総覧（対前年比較）－埼玉県－……………………３９
第４表　〃　－全　国－………………………………………………４０
第５表　死因順位（１～10 位）別死亡数･死亡率（人口 10 万対）の対前年比較……４１
第６表　死因簡単分類別死亡数・死亡率の対前年比較………………４２
第７表　死亡数, 性・年齢（5 歳階級）・死因（死因簡単分類）別 ……………４６
第８表　人口動態総覧（保健所・市区町村別）………………………５５
第９表　〃　（都道府県別）…………………………………………５９

埼玉県の人口動態概況（確定数）について

これは、厚生労働省が平成２５年１月から平成２５年１２月までの人口動態調査票を集計したものを年計として公表するものです。

＜二次保健医療圏及び保健所＞

この概況では以下の二次保健医療圏及び保健所で集計しました。

<table>
<tr><th colspan="2">二次保健医療圏</th><th>圏域内保健所</th><th>圏域内市町村</th></tr>
<tr><td colspan="2">南部保健医療圏</td><td>川口保健所</td><td>川口市・蕨市・戸田市</td></tr>
<tr><td colspan="2">南西部保健医療圏</td><td>朝霞保健所</td><td>朝霞市・志木市・和光市・新座市・
富士見市・ふじみ野市・三芳町</td></tr>
<tr><td colspan="2">東部保健医療圏</td><td></td><td>下記市町</td></tr>
<tr><td rowspan="2">副次圏</td><td>東部（北）
保健医療圏</td><td>春日部保健所</td><td>春日部市・越谷市・松伏町</td></tr>
<tr><td>東部（南）
保健医療圏</td><td>草加保健所</td><td>草加市・八潮市・三郷市・吉川市</td></tr>
<tr><td colspan="2">さいたま保健医療圏</td><td>さいたま市保健所</td><td>さいたま市</td></tr>
<tr><td colspan="2">県央保健医療圏</td><td>鴻巣保健所</td><td>鴻巣市・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町</td></tr>
<tr><td colspan="2">川越比企保健医療圏</td><td></td><td>下記市町村</td></tr>
<tr><td rowspan="3">副次圏</td><td>川越比企（北）
保健医療圏</td><td>東松山保健所</td><td>東松山市・滑川町・嵐山町・小川町・
川島町・吉見町・ときがわ町・東秩父村</td></tr>
<tr><td rowspan="2">川越比企（南）
保健医療圏</td><td>坂戸保健所</td><td>坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町・越生町・
鳩山町</td></tr>
<tr><td>川越市保健所</td><td>川越市</td></tr>
<tr><td colspan="2">西部保健医療圏</td><td>狭山保健所</td><td>所沢市・飯能市・狭山市・入間市・日高市</td></tr>
<tr><td colspan="2">利根保健医療圏</td><td></td><td>下記市町</td></tr>
<tr><td rowspan="2">副次圏</td><td>利根（北）
保健医療圏</td><td>加須保健所</td><td>行田市・加須市・羽生市</td></tr>
<tr><td>利根（南）
保健医療圏</td><td>幸手保健所</td><td>久喜市・蓮田市・幸手市・白岡市・宮代町・
杉戸町</td></tr>
<tr><td colspan="2">北部保健医療圏</td><td></td><td>下記市町</td></tr>
<tr><td rowspan="2">副次圏</td><td>北部（東）
保健医療圏</td><td>熊谷保健所</td><td>熊谷市・深谷市・寄居町</td></tr>
<tr><td>北部（西）
保健医療圏</td><td>本庄保健所</td><td>本庄市・美里町・神川町・上里町</td></tr>
<tr><td colspan="2">秩父保健医療圏</td><td>秩父保健所</td><td>秩父市・横瀬町・皆野町・長瀞町・
小鹿野町</td></tr>
</table>

＜比率の解説＞

$$\text{出生・死亡・婚姻・離婚の率} = \frac{\text{件　数}}{\text{人　口}} \times 1,000$$

※　死因別死亡率については、×100,000

$$\text{乳児死亡率} = \frac{\text{乳児（生後１年未満）死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{新生児死亡率} = \frac{\text{新生児（生後４週未満）死亡数}}{\text{出生数}} \times 1,000$$

$$\text{自然増減率} = \frac{\text{自然増減数（出生数－死亡数）}}{\text{人　口}} \times 1,000$$

$$\text{死産率} = \frac{\text{死産数}}{\text{出産数（出生数＋死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{周産期死亡率} = \frac{\text{後期(妊娠満 22 週以後)死産数＋早期新生児(生後 1 週未満)死亡数}}{\text{出産数（出生数＋後期死産数）}} \times 1,000$$

$$\text{合計特殊出生率} = \left[\frac{\text{母の年齢階級別出生数}}{\text{年齢階級別女子人口}} \right] \text{15 歳～49 歳までの合計（５歳階級で算出）}$$

＜比率算出に用いた人口＞

〇全国、埼玉県の人口

「平成 25 年人口動態統計（確定数）の概況（厚生労働省)」による

都道府県・男女別人口（日本人人口）

〇さいたま市保健所管内の人口

「平成 25 年人口動態統計（確定数）の概況（厚生労働省)」による

21 大都市人口・男女別人口（総人口）

〇市区町村の人口

埼玉県総務部統計課「平成 25 年 10 月 1 日現在推計人口（総人口)」

統計表の表章記号	
－	計数のない場合
…	計数不明の場合又は計数を表章することが不適切な場合
・	統計項目のあり得ない場合
０．０	数値が微少（0.05 未満）の場合
△又は－（マイナス）	減を表す場合

１　人口動態の概況（平成２５年１月～１２月）

（１）出　生　数　＜増加＞

出生数は57,470人で前年に比べ527人増加し、出生率は人口千人に対し8.1で、前年と比べ0.1ポイント上昇した。

（２）死　亡　数　＜増加＞

死亡数は60,264人で前年に比べ1,127人増加し、死亡率は人口千人に対し8.4で、前年と比べ0.1ポイント上昇した。

（３）乳児死亡数　＜同数＞

乳児死亡数は114人、乳児死亡率が出生千人に対し2.0で、いずれも前年と同数（率）であった。

（４）自然増減数　＜減少＞

自然増減数は△2,794人で前年に比べ600人減少し、自然増減率は人口千人に対し△0.4で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

（５）死　産　数　＜増加＞

死産数は1,401胎で前年に比べ11胎増加し、死産率は出産(出生＋死産)千人(胎)に対し23.8で、前年と同率であった。

（６）周産期死亡数　＜減少＞

周産期死亡数は216人(胎)で前年に比べ33人(胎)減少し、周産期死亡率は出産千人(胎)に対し3.7で、前年と比べ0.7ポイント低下した。

（７）婚 姻 件 数　＜減少＞

婚姻件数は36,279件で前年に比べ497件減少し、婚姻率は人口千人に対し5.1で、前年に比べ0.1ポイント低下した。

（８）離 婚 件 数　＜減少＞

離婚件数は13,138件で前年に比べ296件減少し、離婚率は人口千人に対し1.84で、前年に比べ0.05ポイント低下した。

表－１　人口動態の概況（対前年比較）

埼 玉 県

	平成25年	平成24年	増減	率			平均発生間隔					
				平成25年	平成24年	増減	平成25年			平成24年		
							時	分	秒	時	分	秒
出　生	57 470	56 943	527	8.1	8.0	0.1		9	9		9	14
死　亡	60 264	59 137	1 127	8.4	8.3	0.1		8	43		8	53
乳児死亡	114	114	－	2.0	2.0	－	76	50	32	76	50	32
新生児死亡	50	50	－	0.9	0.9	－	175	12	0	175	12	0
自然増加	△ 2 794	△ 2 194	△ 600	△ 0.4	△ 0.3	△ 0.1			…			…
死　産	1 401	1 390	11	23.8	23.8	－	6	15	10	6	18	8
周産期死亡	216	249	△ 33	3.7	4.4	△ 0.7	40	33	20	35	10	51
婚　姻	36 279	36 776	△ 497	5.1	5.2	△ 0.1		14	29		14	18
離　婚	13 138	13 434	△ 296	1.84	1.89	△ 0.05		40	0		39	7

２ 各 論

(1)出 生

ア 出生数及び出生率

平成25年の出生数は57,470人で、前年の56,943人より527人増加した。

出生数を年次推移でみると、昭和48年の106,008人をピークに平成2年まで減少し続け、その後増加と減少を繰り返していた。平成13年から5年連続で減少し、平成 18年は6年ぶりに増加したが、平成19年からは再び減少傾向にある。

出生率は、人口千人に対し8.1で前年の8.0を0.1ポイント上回った。全国の出生率は8.2であった。

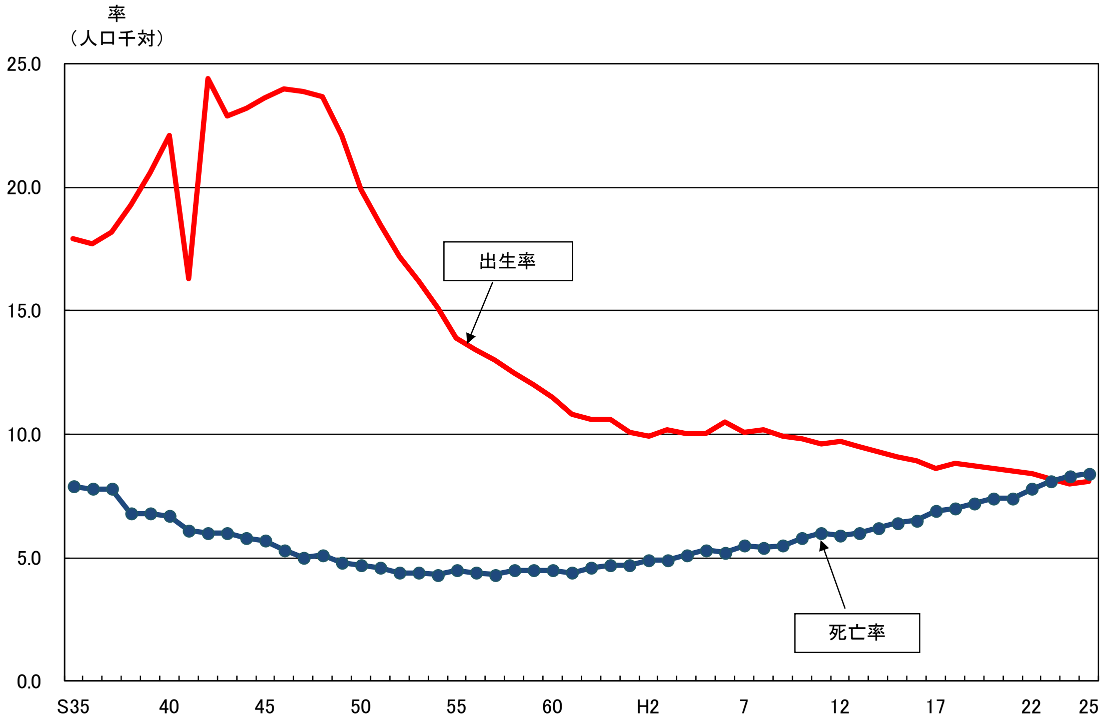
出生率の年次推移をみると、第2次ベビーブームの昭和46年の24.0以降低下を続け、平成元年に10.1となり、その後上昇と下落を繰り返しながら10.0前後で推移していた。平成13年から5年連続で下落し、平成18年は6年ぶりに上昇したが、平成19年から再び低下傾向にある。平成25年は平成18年以来7年ぶりに上昇した。なお、昭和41年にみられる出生率の低下は、丙午(ひのえうま)によるものである。

出生率を全国と比較してみると、本県の出生率は平成3年以降、わずかながら全国を上回る状態であった。しかし、平成20年に全国を下回り、平成21年には同率となったものの、平成22年以降再び下回っている。

表－２ 出生数及び出生率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
数	埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750	66 376	59 731	59 437	58 059	56 943	57 470
	全 国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064	1 190 547	1 062 530	1 071 304	1 050 806	1 037 231	1 029 816
率	埼玉県	17.9	22.1	23.6	19.9	13.9	11.5	9.9	10.1	9.7	8.6	8.4	8.2	8.0	8.1
	全 国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.5	8.3	8.2	8.2

図－1 出生率の年次推移(埼玉県・全国)



イ 都道府県別にみた出生率

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後回復し、平成7年には4位となったが、近年は、平成22年22位、平成23年25位、平成24年26位、平成25年23位となっている。

表－3 都道府県別にみた出生率

	昭和60年			平成2年			平成7年			平成12年			平成17年		
	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位
	全国	11.9		全国	10.0		全国	9.6		全国	9.5		全国	8.4	
高	沖縄	17.6	1	沖縄	14.0	1	沖縄	13.2	1	沖縄	12.8	1	沖縄	11.9	1
	福島	13.3	2	滋賀	11.2	2	愛知	10.6	2	愛知	10.8	2	滋賀	9.5	2
	佐賀	13.1	3	佐賀	10.9	3	滋賀	10.5	3	滋賀	10.6	3	愛知	9.4	3
	宮城	12.9	4	福島	10.8	4	埼玉	10.1	4	大阪	10.2	4	福井	8.8	4
率	宮崎	12.9	5	愛知	10.7	5	山梨	10.1	5	佐賀	10.0	5	大阪	8.8	5
	鹿児島	12.7	6	長崎	10.6	6	福井	10.1	6	兵庫	10.0	6	神奈川	8.8	6
	滋賀	12.7	7	福井	10.6	7	福島	10.0	7	神奈川	9.9	7	栃木	8.7	7
	長崎	12.7	8	鹿児島	10.5	8	大阪	10.0	8	岡山	9.8	8	佐賀	8.7	8
順	栃木	12.7	9	鳥取	10.4	9	宮崎	10.0	9	福井	9.8	9	広島	8.7	9
	熊本	12.6	10	宮城	10.4	10	神奈川	9.9	10	石川	9.8	10	福岡	8.7	10
	埼玉	11.5	34	埼玉	9.9	29				埼玉	9.7	15	埼玉	8.6	18
低	富山	10.7	1	高知	8.7	1	秋田	8.2	1	秋田	7.6	1	秋田	6.7	1
	東京	10.7	2	山口	8.8	2	東京	8.4	2	北海道	8.3	2	徳島	7.3	2
率	秋田	10.9	3	東京	8.9	3	高知	8.5	3	高知	8.4	3	青森	7.3	3
	高知	11.1	4	秋田	9.0	4	山口	8.6	4	東京	8.5	4	北海道	7.4	4
順	京都	11.1	5	富山	9.0	5	島根	8.8	5	島根	8.6	5	高知	7.5	5

	平成22年			平成23年			平成24年			平成25年		
	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位	都道府県名	率	順位
	全国	8.5		全国	8.3		全国	8.2		全国	8.2	
高率順	沖縄	12.3	1	沖縄	12.1	1	沖縄	12.2	1	沖縄	12.2	1
	愛知	9.6	2	滋賀	9.6	2	滋賀	9.5	2	滋賀	9.3	2
	滋賀	9.6	3	愛知	9.5	3	愛知	9.3	3	愛知	9.2	3
	福岡	9.3	4	福岡	9.2	4	福岡	9.1	4	福岡	9.1	4
	広島	9.0	5	佐賀	9.0	5	熊本	8.9	5	熊本	8.9	5
	宮崎	9.0	6	広島	9.0	6	佐賀	8.9	6	宮崎	8.8	6
	佐賀	9.0	7	宮崎	9.0	7	広島	8.8	7	広島	8.8	7
	熊本	9.0	8	鹿児島	9.0	8	鹿児島	8.8	8	鹿児島	8.7	8
	鹿児島	8.9	9	熊本	8.9	9	宮崎	8.8	9	佐賀	8.7	9
	神奈川	8.8	10	岡山	8.7	10	福井	8.5	10	東京	8.5	10
	埼玉	8.4	22	埼玉	8.2	25	埼玉	8.0	26	埼玉	8.1	23
低率順	秋田	6.2	1	秋田	6.2	1	秋田	6.2	1	秋田	5.9	1
	青森	7.1	2	高知	6.9	2	青森	6.8	2	青森	6.8	2
	高知	7.2	3	青森	7.0	3	高知	7.0	3	北海道	7.1	3
	北海道	7.3	4	岩手	7.1	4	福島	7.0	4	高知	7.1	4
	岩手	7.4	5	北海道	7.2	5	北海道	7.1	5	岩手	7.2	5

ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、戸田市(11.4)、和光市(11.1)、朝霞市(10.3)の順である。

また、低率順では、鳩山町(3.0)、東秩父村(3.2)、ときがわ町(3.8)の順である。

表－4 市町村別にみた出生率(高率順)

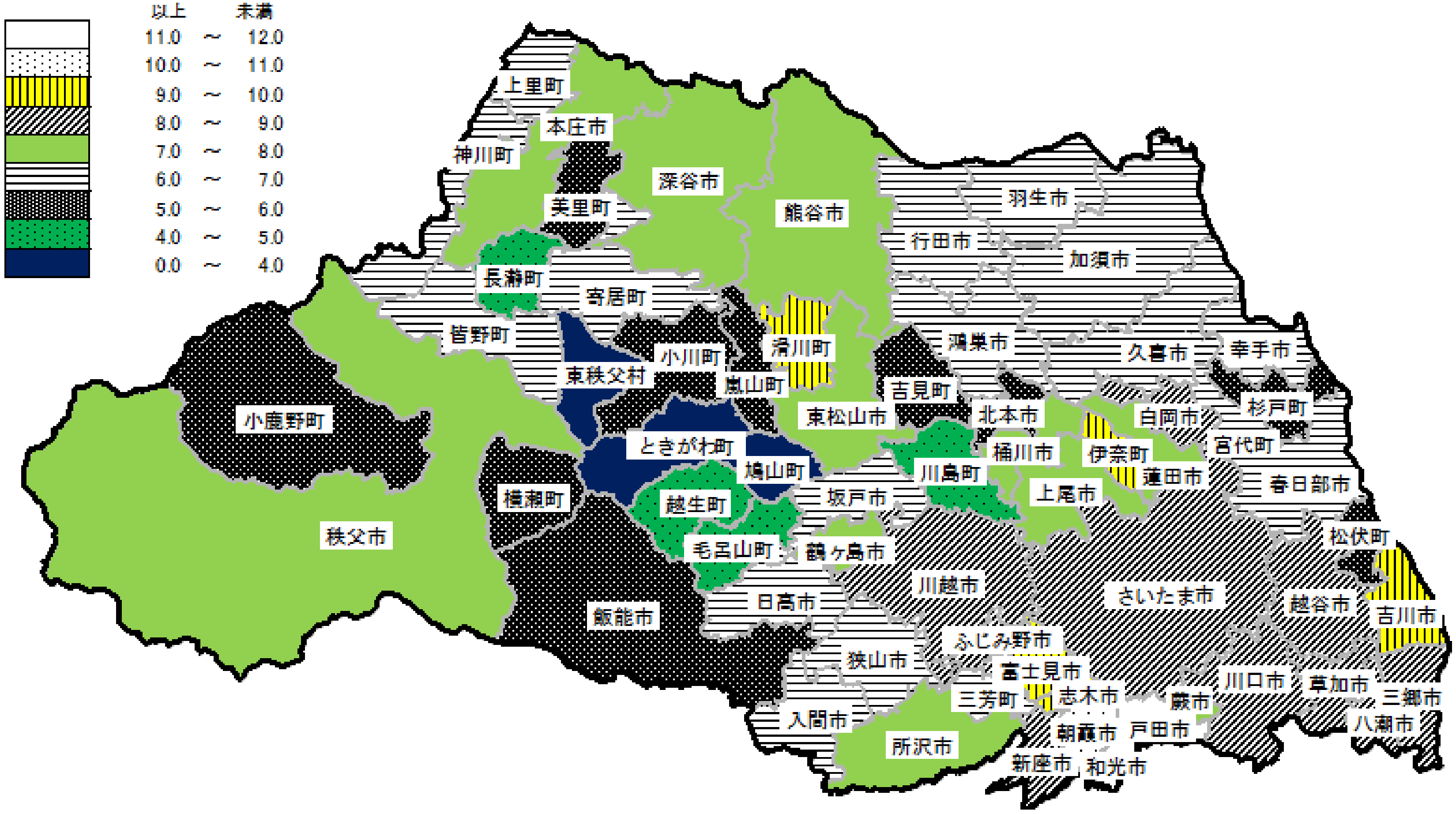
埼 玉 県

順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	戸田市	11.4	29	桶川市	7.0	57	越生町	4.9
2	和光市	11.1	30	春日部市	6.9	58	長瀞町	4.8
3	朝霞市	10.3	31	坂戸市	6.9	59	毛呂山町	4.5
4	志木市	9.9	32	入間市	6.9	60	川島町	4.4
5	富士見市	9.7	33	皆野町	6.8	61	ときがわ町	3.8
6	吉川市	9.7	34	鴻巣市	6.8	62	東秩父村	3.2
7	滑川町	9.4	35	上里町	6.7	63	鳩山町	3.0
8	伊奈町	9.2	36	久喜市	6.7			
9	川口市	8.9	37	三芳町	6.6			
10	八潮市	8.8	38	狭山市	6.6			
11	さいたま市	8.7	39	日高市	6.5			
12	川越市	8.7	40	加須市	6.3			
13	新座市	8.6	41	行田市	6.2			
14	ふじみ野市	8.6	42	羽生市	6.1			
15	白岡市	8.4	43	寄居町	6.1			
16	越谷市	8.3	44	神川町	6.0			
17	草加市	8.2	45	宮代町	6.0			
18	三郷市	8.1	46	幸手市	6.0			
19	所沢市	7.9	47	北本市	5.9			
20	上尾市	7.9	48	美里町	5.8			
21	蕨市	7.8	49	飯能市	5.8			
22	蓮田市	7.7	50	横瀬町	5.7			
23	深谷市	7.5	51	松伏町	5.7			
24	鶴ケ島市	7.5	52	小鹿野町	5.3			
25	熊谷市	7.1	53	吉見町	5.2			
26	東松山市	7.1	54	杉戸町	5.2			
27	本庄市	7.1	55	小川町	5.1			
28	秩父市	7.1	56	嵐山町	5.1			

注 率は人口千対

図－３　市町村別出生率状況図

全　国:8.2
埼玉県:8.1



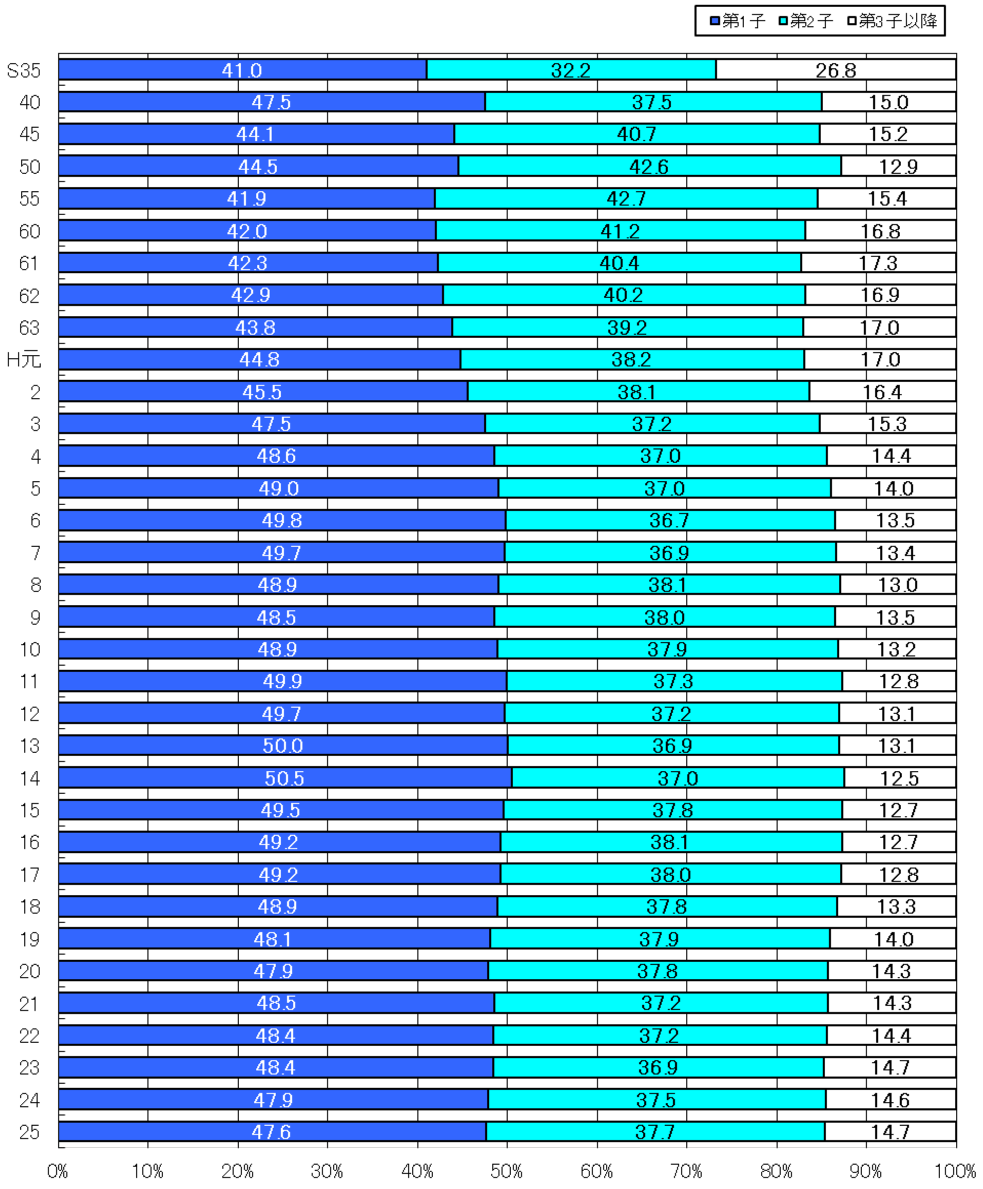
エ　出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第１子の割合は昭和60年(42.0%)から平成6年(49.8%)まで増加を続けていた。しかし、平成7年以降は増減をくり返し、平成15年からは減少傾向にあった。平成21年は再び増加したが、平成22年は減少、平成23年は横ばいであった。平成24年に再び減少し、平成25年は前年の47.9%をわずかに下回り47.8%だった。

また、第2子の割合は昭和55年(42.7%)以降減少を続けていたが、平成6年から平成8年にかけてやや増加した。その後は再び増減をくり返し、ここ数年は37%前後で推移している。

第3子以降の割合は、昭和35年には28.6%と全体の3割ほどを占めていたものの、それ以降は15%前後で推移しており、平成25年は14.5%だった。

図－３　出生順位別にみた出生割合の年次推移(埼玉県)



表－５ 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

	出生数						構成割合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子以降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子以降
							%	%	%	%	%	%
昭和 35 年	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.5	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	2.0	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.4
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.4
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
平成 元 年	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.5	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.5	37.2	12.8	2.0	0.5
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.1	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.5
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.9	37.9	11.0	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.4
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	37.0	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.4
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.5
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6
22	59 437	28 748	22 138	6 886	1 289	376	100.0	48.4	37.2	11.6	2.2	0.6
23	58 059	28 081	21 419	6 902	1 255	402	100.0	48.4	36.9	11.9	2.2	0.7
24	56 943	27 253	21 385	6 710	1 230	365	100.0	47.9	37.6	11.8	2.2	0.6
25	57 470	27 356	21 694	6 753	1 252	415	100.0	47.6	37.7	11.8	2.2	0.7

注 第5子以降には不詳を含む

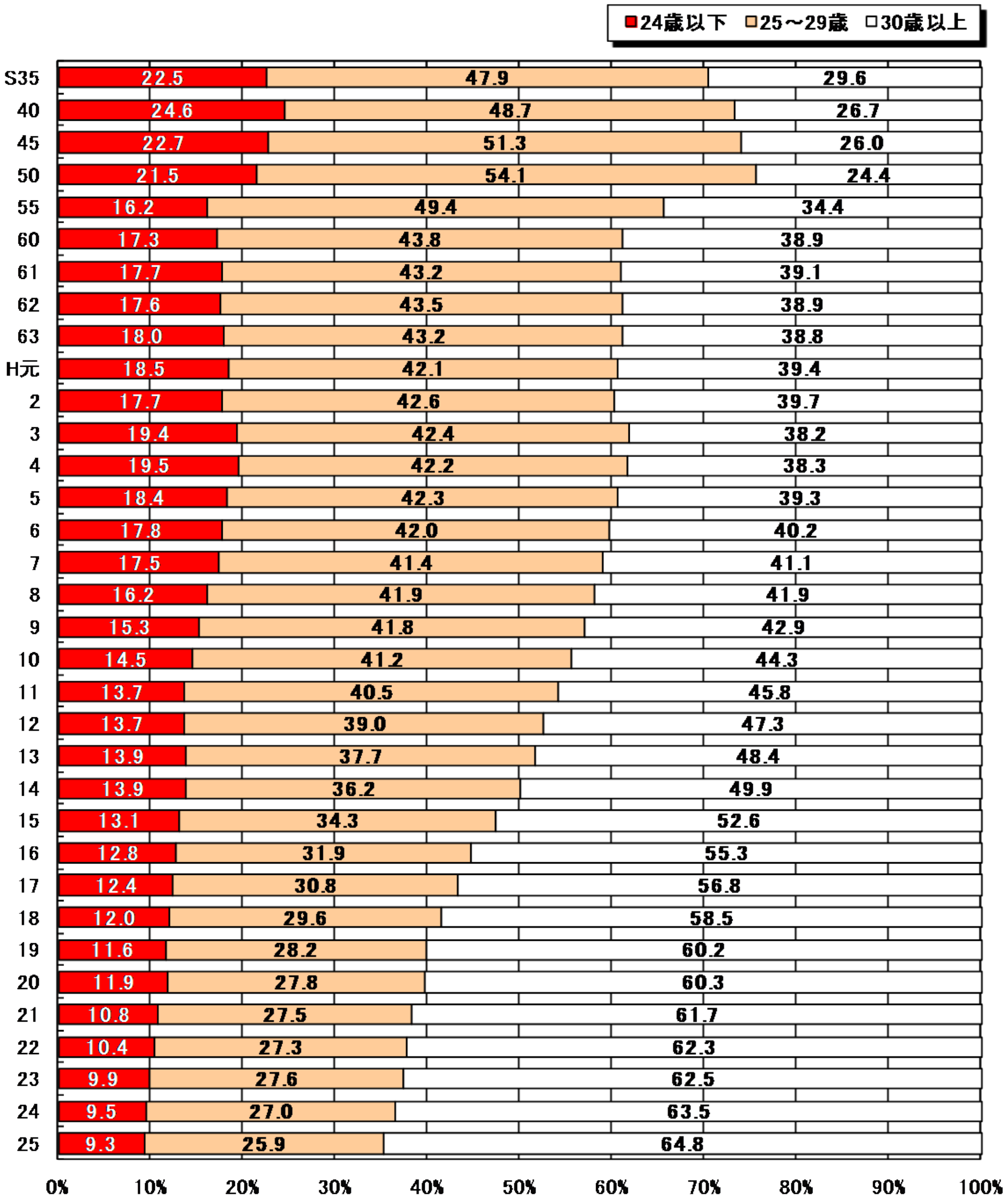
オ　母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和50年の54.1%をピークとして下落を続けており、平成25年は25.9%だった。ピーク時の昭和50年と比較して全体に占める割合は2分の1を下回っている。

また、24歳以下は平成５年以降減少傾向にあり、平成25年は9.3%で前年の9.5%を0.2ポイント下回った。

30歳以上は増加を続け、平成15年に出生数全体の5割を、平成19年からは6割を超え、平成25年は64.8%となった。

図－４　母の年齢階級別出生割合(埼玉県)



（2）死　亡

ア　死亡数及び死亡率

死亡数は60,264人で、前年の59,137人より1,127人増加した。

死亡率は、人口千人に対し8.4で前年の8.3を0.1ポイント上回った。全国(10.1)より 1.7ポイント下回っている。

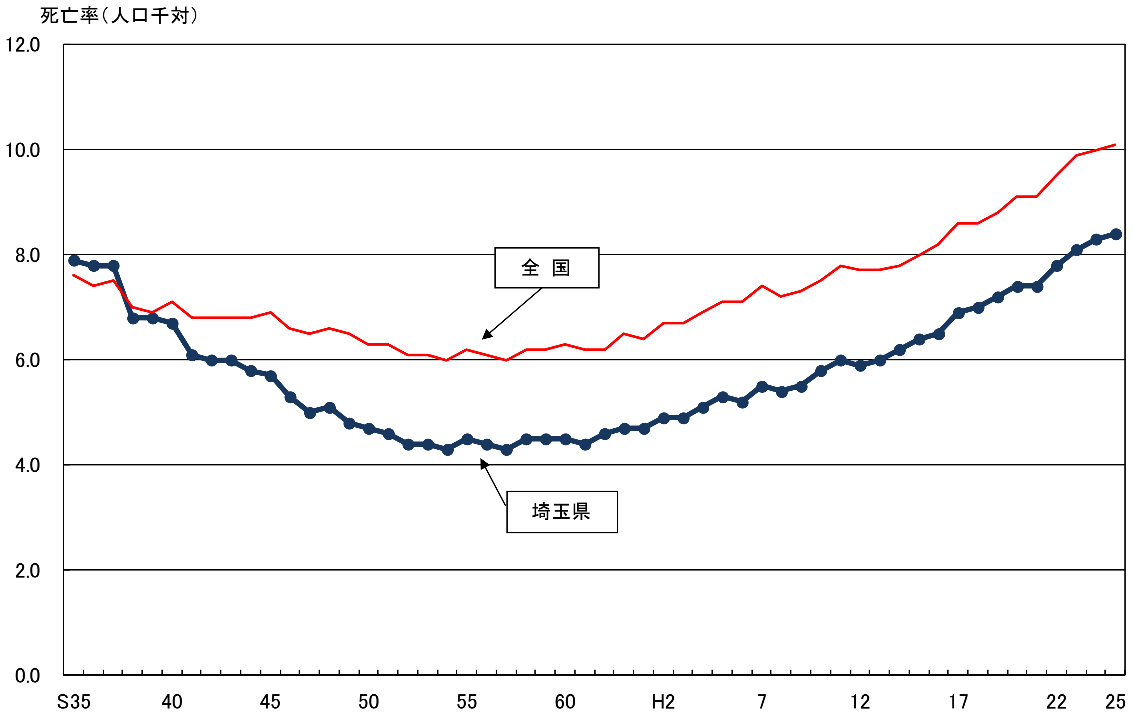
死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和50年4.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和60年以降平成13年まで、昭和62年を除き低率順で第１位、平成14、15年は沖縄県に次いで第２位、16年からは沖縄県及び神奈川県に次いで第３位となっている。

表－6　死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799	40 486	48 095	55 487	57 670	59 137	60 264
	全　国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139	961 653	1 083 796	1 197 012	1 253 066	1 256 359	1 268 436
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5	5.9	6.9	7.8	8.1	8.3	8.4
	全　国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4	7.7	8.6	9.5	9.9	10.0	10.1

図－5　死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



イ 死因

(ア)死因順位

平成25年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 18,100人(死亡総数の30.0%)、第2位は心疾患 10,186人(16.9%)、第3位は肺炎 6,309人(10.5%)、第4位は脳血管疾患 5,472人(9.1%)、第5位は老衰 2,548人(4.2%)、第6位は自殺1,486人(2.5%)、第7位は不慮の事故 1,481人(2.5%)となっている。

死亡率(人口10万対)を前年度と比べると、上昇を示したのは悪性新生物、肺炎、老衰、肝疾患の4疾患であった。具体的には、悪性新生物(253.7)が3.7ポイント、肺炎(88.4)が4.6ポイント、老衰(35.7)が4.8ポイント、肝疾患(10.5)が0.8ポイント上昇した。

一方、低下したのは、心疾患、脳血管疾患、自殺、不慮の事故、腎不全、糖尿病の6疾患である。心疾患(142.8)が2.1ポイント、脳血管疾患(76.7)が0.7ポイント、自殺(20.8)が0.6ポイント、不慮の事故(20.8)が0.4ポイント、腎不全(15.5)が0.5ポイント、糖尿病(9.9)が0.6ポイントの低下となった。

表−7 主な死因別死亡数及び死亡率(対前年比較)

埼 玉 県

死 因	平成25年			平成24年		
	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合
総 数	60 264	844.7	100.0	59 137	829.9	100.0
悪性新生物	18 100	253.7	30.0	17 818	250.0	30.1
心疾患	10 186	142.8	16.9	10 325	144.9	17.5
肺炎	6 309	88.4	10.5	5 972	83.8	10.1
脳血管疾患	5 472	76.7	9.1	5 517	77.4	9.3
老衰	2 548	35.7	4.2	2 201	30.9	3.7
自殺	1 486	20.8	2.5	1 528	21.4	2.6
不慮の事故	1 481	20.8	2.5	1 514	21.2	2.6
腎不全	1 109	15.5	1.8	1 142	16.0	1.9
肝疾患	804	11.3	1.3	745	10.5	1.3
糖尿病	707	9.9	1.2	749	10.5	1.3
小 計	48 202	675.7	80.0	47 511	666.7	80.3
その他	12 062	169.1	20.0	11 626	163.1	19.7

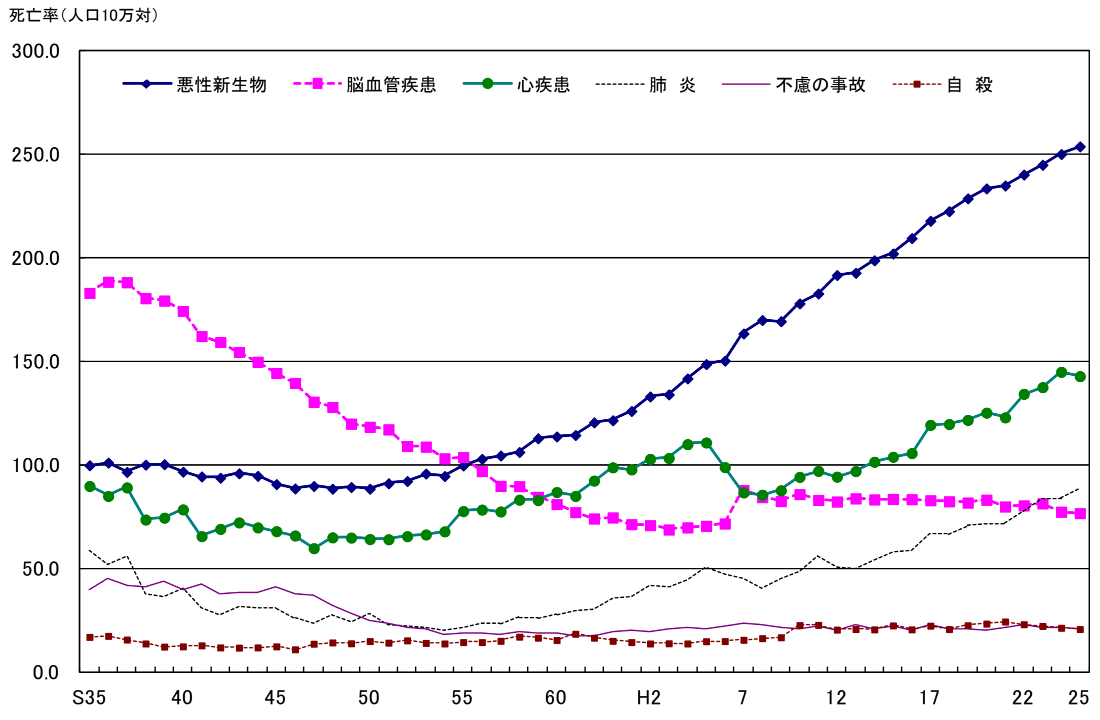
死因別に死亡率(人口10万対)の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇を続け、平成15年には200.0を超えた。また、昭和56年以降は死因順位第1位となり、平成25年の死亡総数に占める割合は30.0%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。平成25年の死亡総数に占める割合は16.9%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にあったが、平成23年には、肺炎にかわり第4位となり、平成25年の死亡総数に占める割合は9.1%となっている。

なお、平成6・7年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正によるものと考えられる。

図－６　主要死因別死亡率の年次推移(埼玉県)



※死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

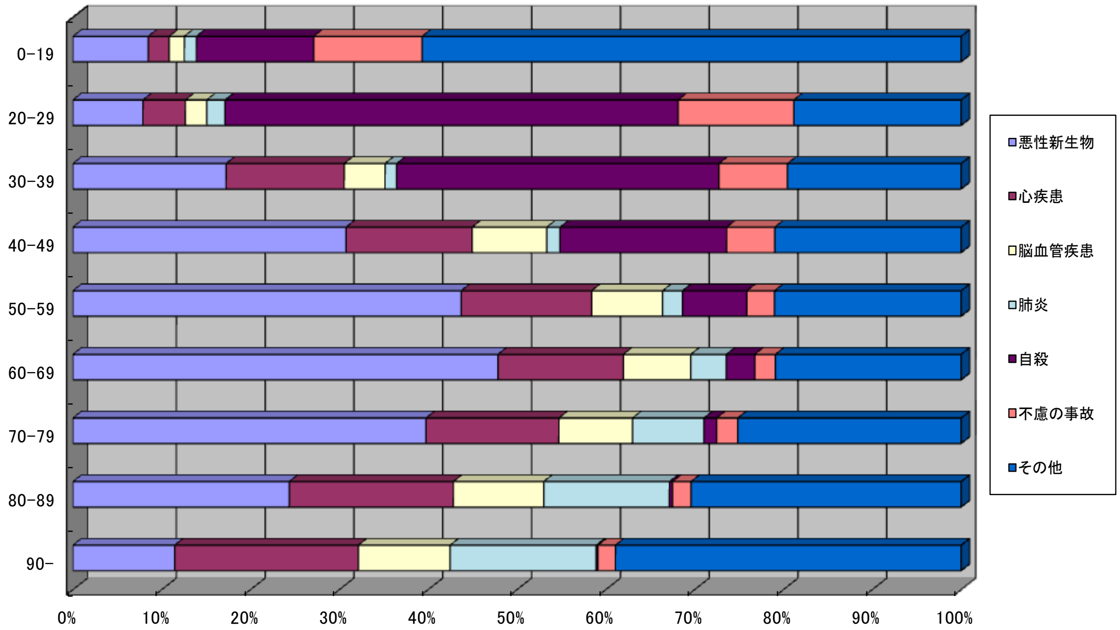
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書(死体検案書)における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、10～30歳代では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。

図－7　年齢階級別にみた主要死因別割合



（イ）悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は18,100人で、死亡総数の30.0%を占めている。全死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が6,088人で最も多く、80～89歳が4,908人、60～69歳が3,978人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が47.9%で最も多く、50～59歳43.7%、70～79歳39.8%の順となっている。

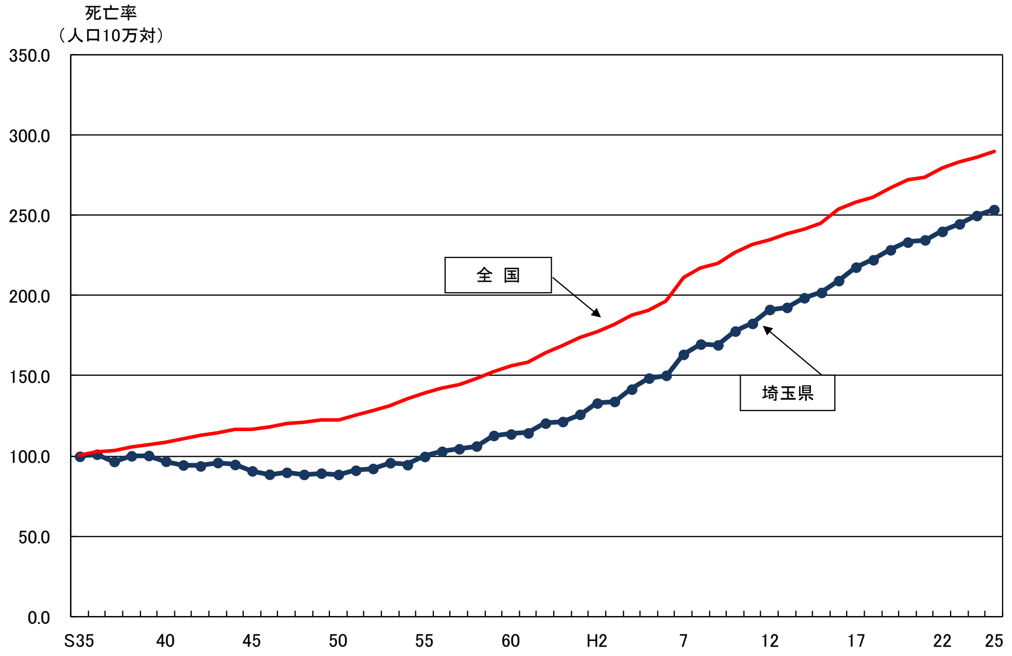
死亡率(人口10万対)は、253.7で上昇を続けている。全国は290.3である。

表－８　悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼　玉　県

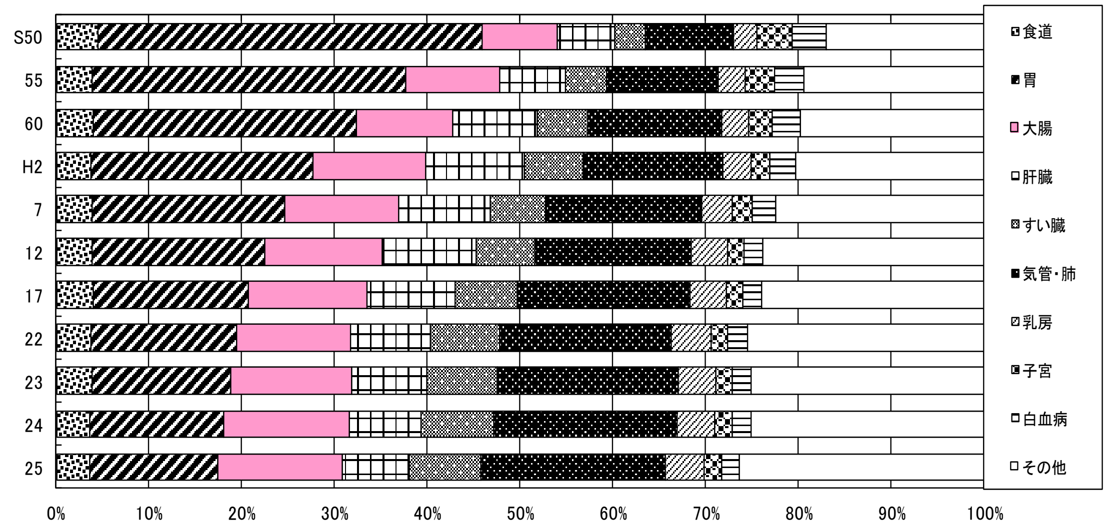
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	60 264	295	292	609	1 535	2 866	8 313	15 313	20 151	10 886	4
悪性新生物による死亡数	18 100	25	23	105	472	1 253	3 978	6 088	4 908	1 247	1
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.6%	2.6%	6.9%	22.0%	33.6%	27.1%	6.9%	0.1%
死亡総数に占める割合	30.0%	8.5%	7.9%	17.2%	30.7%	43.7%	47.9%	39.8%	24.4%	11.5%	25.0%

図－８　悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が3,593人(19.9%)で最も多く、次いで「胃」が2,487人(13.7%)、「大腸」が2,437人(13.5%)の順となっている。

図－９ 悪性新生物の部位別割合の推移（埼玉県）



表－９ 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

埼 玉 県

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	17 424	17 818	18 100
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	679	635	652
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 598	2 568	2 487
大腸	…	…	…	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 271	2 421	2 437
（結腸）	…	…	…	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 555	1 603	1 681
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	716	818	756
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 416	1 388	1 302
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 327	1 396	1 411
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 383	3 523	3 593
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	702	703	745
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	317	353	350
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	362	343	350
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 369	4 488	4 773
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	5.0	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.1	3.7	3.9	3.6	3.6
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	14.9	14.4	13.7
大腸	…	…	…	8.1	10.1	10.3	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.0	13.6	13.5
（結腸）	…	…	…	4.2	5.4	6.1	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	8.9	9.0	9.3
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.6	4.2
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	10.0	10.2	9.5	8.5	8.1	7.8	7.2
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	7.6	7.8	7.8
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	19.4	19.8	19.9
乳房	1.7	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.0	3.9	4.1
子宮	5.7	5.4	4.0	3.8	3.1	2.5	2.0	2.1	1.8	1.7	1.8	1.8	2.0	1.9
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.1	1.9	1.9
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	25.2	25.2	26.4

（ウ）心疾患

心疾患による死亡数は10,186人で、死亡総数の16.9%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が3,726人で最も多く、70～79歳が2,292人、90歳以上が2,252人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が20.7%で最も多く、80～89歳が18.5%、70～79歳が15.0%の順となっている。

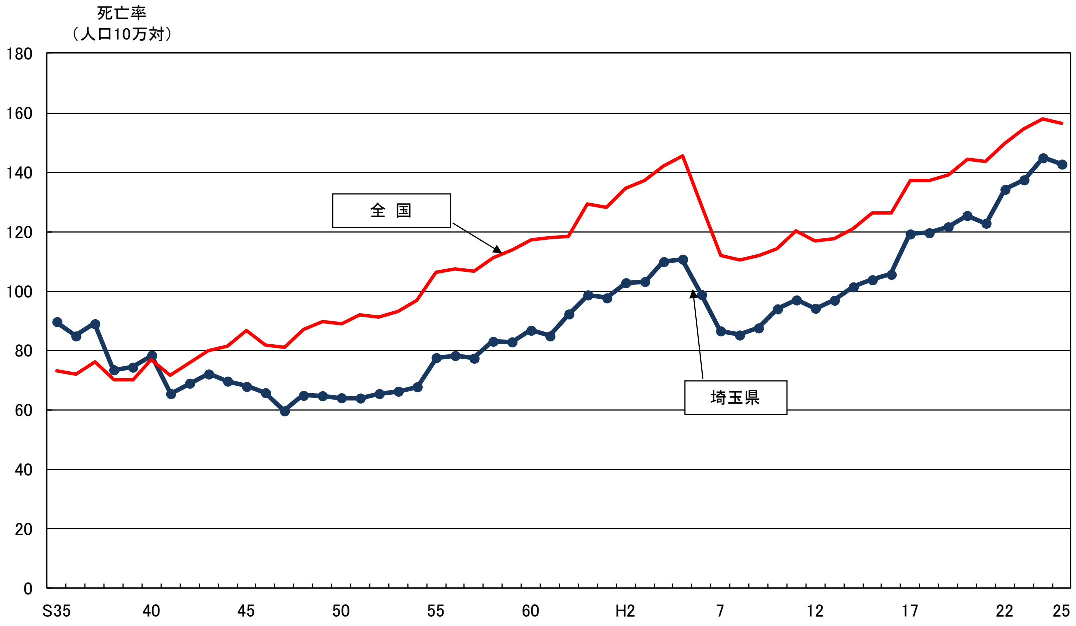
死亡率(人口10万対)は142.8で、近年は上昇傾向にある。全国は156.5である。

表－１０　心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	60 264	295	292	609	1 535	2 866	8 313	15 313	20 151	10 886	4
心疾患による死亡数	10 186	7	14	81	218	421	1 174	2 292	3 726	2 252	1
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.8%	2.1%	4.1%	11.5%	22.5%	36.6%	22.1%	0.1%
死亡総数に占める割合	16.9%	2.4%	4.8%	13.3%	14.2%	14.7%	14.1%	15.0%	18.5%	20.7%	25.0%

図－１０　心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



（エ）肺炎

肺炎による死亡数は6,309人で、死亡総数の10.5%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,852人で最も多く、90歳以上が1,790人、70～79歳が1,229人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が16.4%で最も多く、80～89歳が14.2%、70～79歳が8.0%の順となっている。

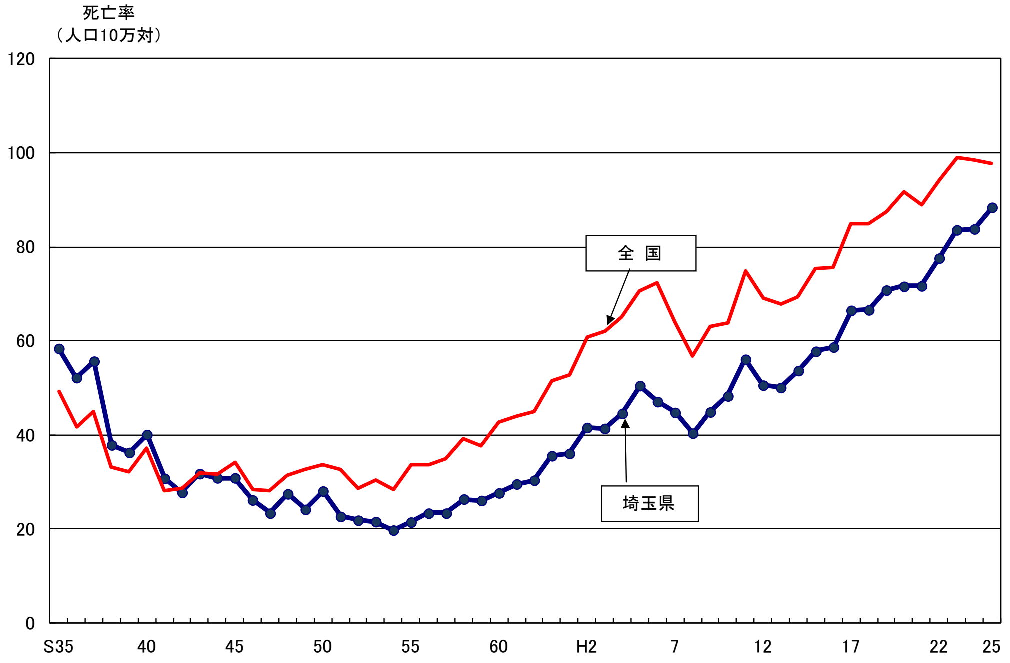
死亡率(人口10万対)は、88.4で近年は上昇傾向にある。全国は97.8である。

表－11　肺炎による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	60 264	295	292	609	1 535	2 866	8 313	15 313	20 151	10 886	4
肺炎による死亡数	6 309	4	6	8	23	64	333	1 229	2 852	1 790	－
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.3%	1.0%	5.3%	19.5%	45.2%	28.4%	－
死亡総数に占める割合	10.5%	1.4%	2.1%	1.3%	1.5%	2.2%	4.0%	8.0%	14.2%	16.4%	－

図－11　肺炎による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



（オ）脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,472人で、死亡総数の9.1%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,048人で最も多く、70～79歳が1,270人、90歳以上が1,125人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が10.3%で最も多く、次いで80～89歳が10.2%、40歳～49歳が8.4%、70～79歳が8.3%の順となっている。

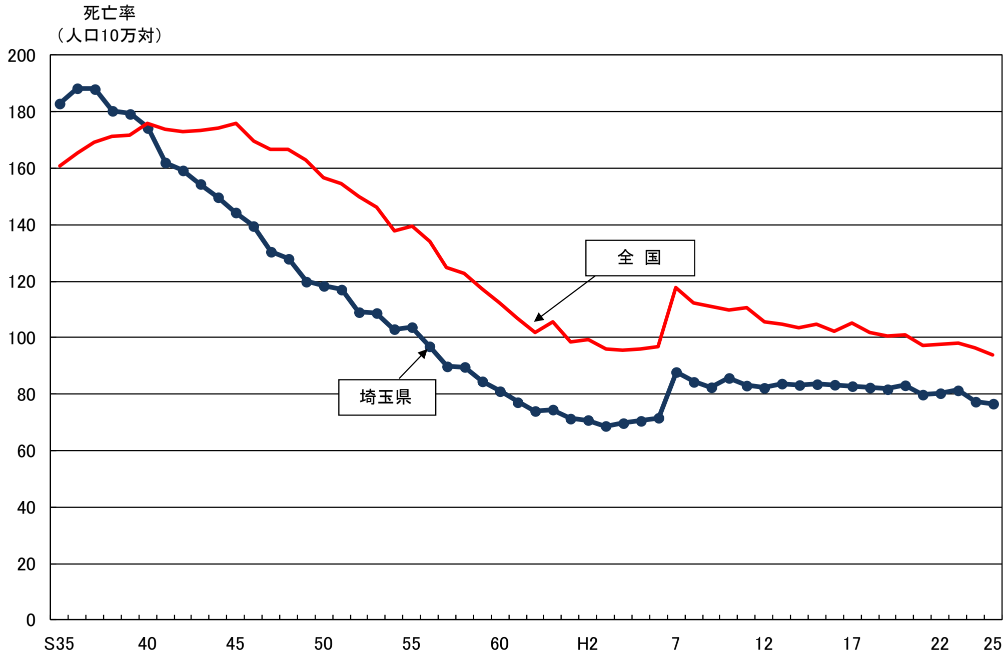
死亡率(人口10万対)は、76.7で近年は横ばいに推移している。全国は94.1である。

表－12　脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼 玉 県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	60 264	295	292	609	1 535	2 866	8 313	15 313	20 151	10 886	4
脳血管疾患による死亡数	5 472	5	7	28	129	229	631	1 270	2 048	1 125	－
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.5%	2.4%	4.2%	11.5%	23.2%	37.4%	20.6%	－
死亡総数に占める割合	9.1%	1.7%	2.4%	4.6%	8.4%	8.0%	7.6%	8.3%	10.2%	10.3%	－

図－12　脳血管疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



(カ)不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,481人で、前年に比べ33人減少した。年齢階級別にみると、80～89歳が419人で最も多く、次いで70～79歳が363人と続いている。

死亡率は、人口10万人に対し20.8で前年より0.4ポイント下回った。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は288人で、前年に比べ9人減少し、死亡率は、人口10万人に対し4.0で前年に比べ0.2ポイント下回った。

なお、全国は、不慮の事故31.5、交通事故4.8である。

表－13　不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合(年齢階級別)

埼　玉　県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
不慮の事故による死亡数	1 481	36	38	47	83	89	193	363	419	213	－
(各年齢階級別割合)	100.0%	2.4%	2.6%	3.2%	5.6%	6.0%	13.0%	24.5%	28.3%	14.4%	－
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	288	18	20	20	35	29	46	73	44	3	－
不慮の事故に占める交通事故の割合	19.4%	50.0%	52.6%	42.6%	42.2%	32.6%	23.8%	20.1%	10.5%	1.4%	－

表－14　不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

	不慮の事故				交通事故					
	埼玉県		全　国		埼玉県			全　国		
	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	数	死亡率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	数	死亡率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合
S 35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5
40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	20.3	55.6	16 257	16.5	40.5
45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.4	61.5	21 535	20.9	49.2
50	1 201	24.9	33 710	30.3	628	13.0	52.3	14 206	12.8	42.1
55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2
60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8
H 2	1 262	19.7	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
13	1 570	22.7	39 496	31.4	568	8.2	36.2	12 378	9.8	31.3
14	1 442	20.8	38 643	30.7	491	7.1	34.0	11 743	9.3	30.4
15	1 548	22.3	38 714	30.7	538	7.7	34.8	10 913	8.7	28.2
16	1 385	19.9	38 193	30.3	421	6.0	30.4	10 551	8.4	27.6
17	1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2
18	1 475	21.1	38 270	30.3	412	5.9	27.9	9 048	7.2	23.6
19	1 460	20.8	37 966	30.1	354	5.1	24.2	8 268	6.6	21.8
20	1 413	20.1	38 153	30.3	342	4.9	24.2	7 499	6.0	19.7
21	1 513	21.5	37 756	30.0	332	4.7	21.9	7 309	5.8	19.4
22	1 635	23.0	40 732	32.2	300	4.2	18.3	7 222	5.7	17.7
23	1 536	21.6	59 416	47.1	315	4.4	20.5	6 741	5.3	11.3
24	1 514	21.2	41 031	32.6	297	4.2	19.6	6 414	5.1	15.6
25	1 481	20.8	39 574	31.5	288	4.0	19.4	6 060	4.8	15.3

注　昭和 35 年から平成 2 年は「自動車事故」の数、平成 7 年以降は「交通事故」の数である。

（キ）自　殺

自殺による死亡数は1,486人(男性1,008人、女性478人)で、前年より42人減少した。死亡率は、人口10万人に対し20.8で、前年の21.4を0.6ポイント下回った。

年齢階級別にみると、70歳以上が315人 (21.2%)で最も多く、次いで40～49歳が　288人で (19.4%)となっている。

表－15　自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

埼 玉 県

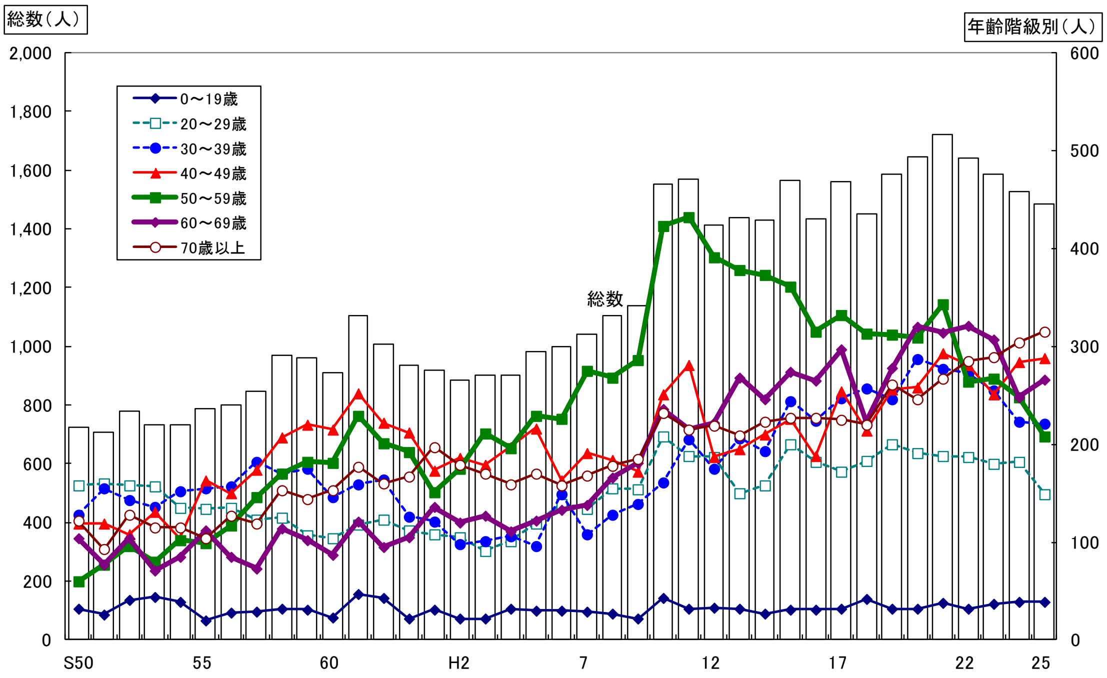
		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 642	1 586	1 528	1 486
	全 国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	29 554	28 896	26 433	26 063
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.5	15.5	13.8	15.6	20.6	22.4	23.1	22.3	21.4	20.8
	全 国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	23.4	22.9	21.0	20.7

表－16　自殺による死亡数及び割合の年次推移（年齢階級別）

埼　玉　県

		総数	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
		人	人	人	人	人	人	人	人
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50
	40	375	32	88	65	36	37	59	58
	45	480	28	117	81	53	57	62	82
	50	723	32	158	128	119	60	104	122
	55	787	20	134	155	163	99	112	104
	60	909	23	104	146	215	181	87	153
H	2	885	22	105	98	186	175	120	179
	7	1 043	29	134	108	191	275	138	168
	12	1 414	33	187	175	187	391	222	219
	17	1 559	32	172	247	254	332	297	225
	18	1 452	42	183	257	214	313	223	220
	19	1 585	32	200	246	256	312	278	261
	20	1 643	32	191	287	258	309	320	246
	21	1 720	38	188	277	293	343	314	267
	22	1 642	32	187	272	281	264	321	285
	23	1 586	37	180	255	251	267	307	289
	24	1 528	39	182	223	284	248	248	304
	25	1 486	39	149	221	288	208	266	315
		%	%	%	%	%	%	%	%
S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.6	11.4	12.1
	40	100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5
	45	100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1
	50	100.0	4.4	21.8	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9
	55	100.0	2.6	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2
	60	100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8
H	2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.5	20.2
	11	100.0	2.0	12.0	13.1	17.9	27.6	13.7	13.7
	16	100.0	2.2	12.7	15.6	13.1	22.0	18.5	15.9
	17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4
	18	100.0	2.9	12.6	17.7	14.7	21.6	15.4	15.2
	19	100.0	2.0	12.6	15.5	16.2	19.7	17.5	16.5
	20	100.0	1.9	11.6	17.5	15.7	18.8	19.5	15.0
	21	100.0	2.2	10.9	16.1	17.0	19.9	18.3	15.5
	22	100.0	1.9	11.4	16.6	17.1	16.1	19.5	17.4
	23	100.0	2.3	11.4	16.1	15.8	16.8	19.4	18.2
	24	100.0	2.6	11.9	14.6	18.6	16.2	16.2	19.9
	25	100.0	2.6	10.0	14.9	19.4	14.0	17.9	21.2

図－13　自殺による死亡数の年次推移（年齢階級別）（埼玉県）



(ク)妊産婦死亡

妊産婦死亡は、1人であった。妊産婦死亡率は、出産10万人(胎)に対し1.7であった。

表－17　妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

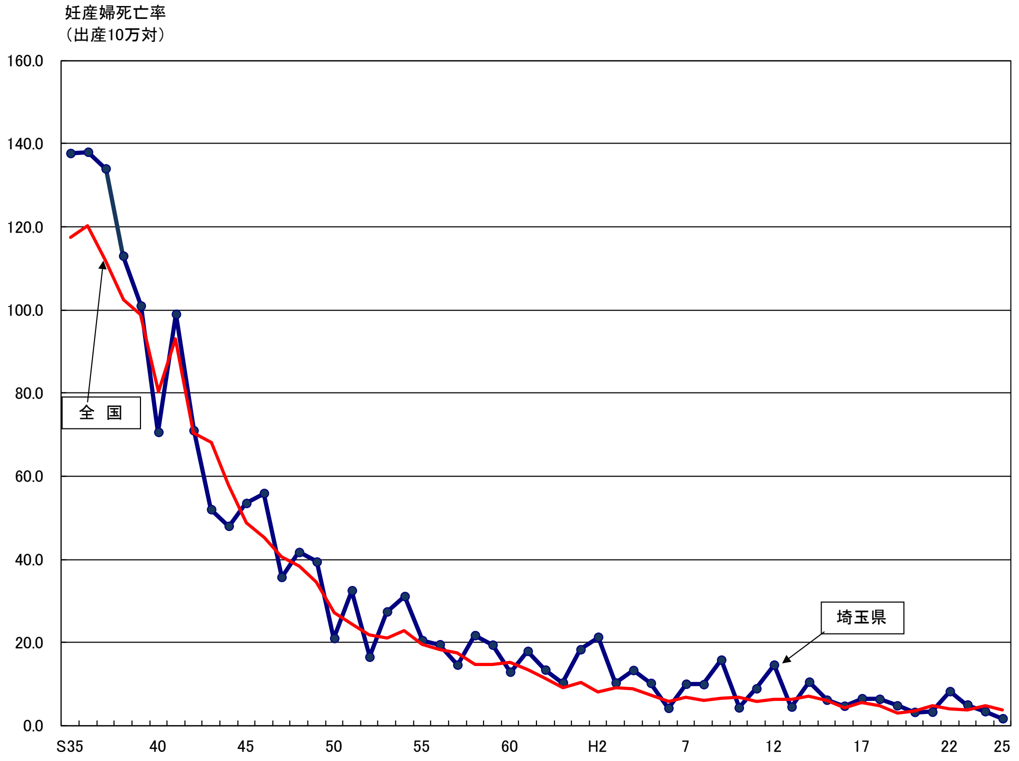
埼 玉 県

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10
	全　国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6
	全　国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3

		H17	18	19	20	21	22	23	24	25
数	埼玉県	4	4	3	2	2	5	3	2	1
	全　国	62.0	54.0	35.0	39.0	53.0	45.0	41.0	42.0	41.0
率	埼玉県	6.5	6.4	4.8	3.2	3.3	8.2	5.0	3.4	1.7
	全　国	5.7	4.8	3.1	3.5	4.8	4.1	3.8	4.0	3.9

注　率は出産（出生＋死産）10万対。平成25年の妊産婦死亡数は死因分類番号15000「妊娠、分娩及び産じょく」の数を用いた。

図－14　妊産婦死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



ウ　市町村別にみた死亡

市町村別にみると、低率順では和光市(5.2)、戸田市(5.9)、伊奈町(6.2)の順である。

また、高率順では、小鹿野町（17.3）、東秩父村（16.0）、皆野町（15.8）の順である。

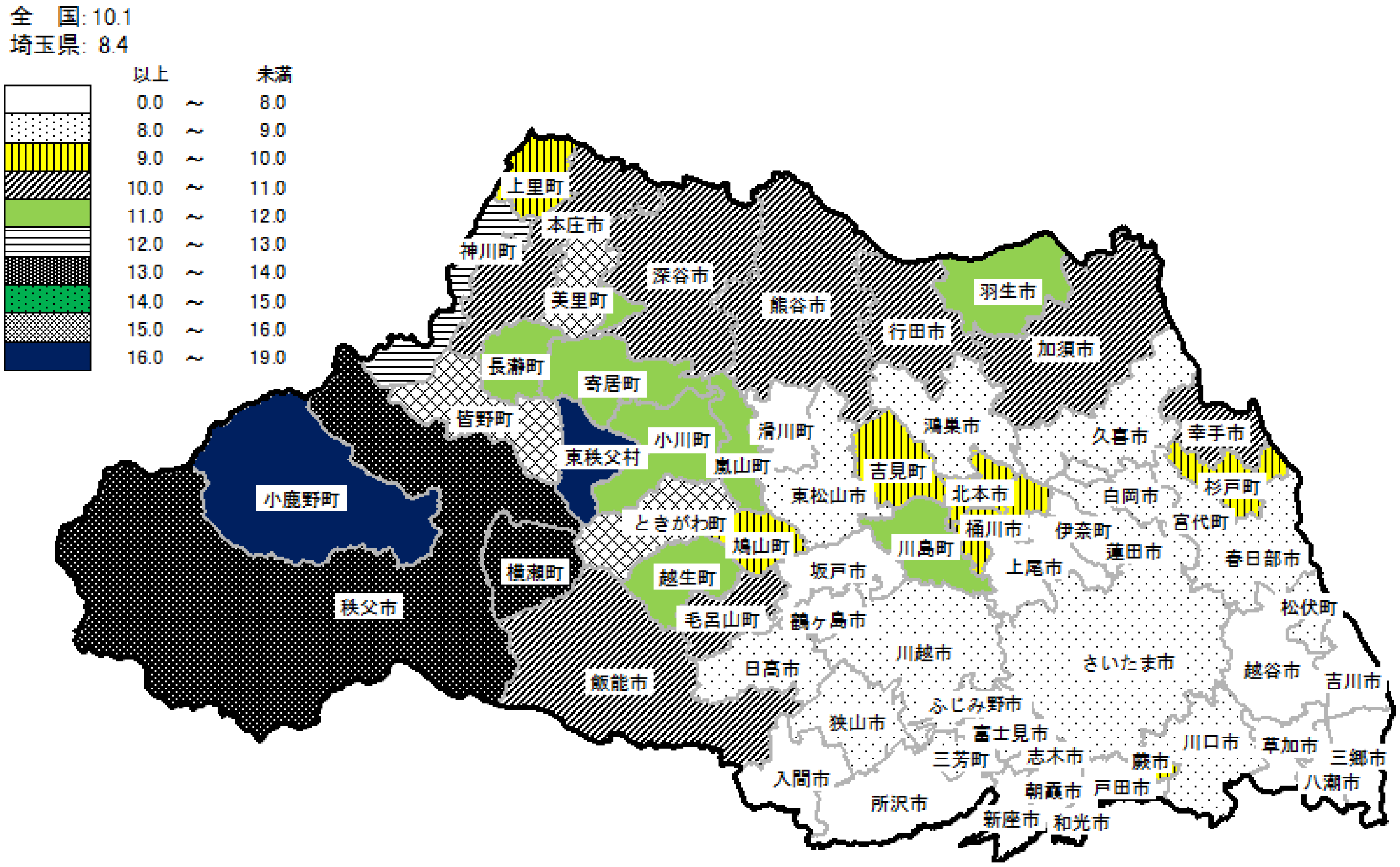
表－18　市町村別にみた死亡率（低率順）

埼　玉　県

順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	和光市	5.2	25	鴻巣市	8.6	49	寄居町	11.0
2	戸田市	5.9	26	ふじみ野市	8.6	50	川島町	11.0
3	伊奈町	6.2	27	春日部市	8.7	51	越生町	11.0
4	朝霞市	6.4	28	久喜市	8.7	52	羽生市	11.3
5	八潮市	7.2	29	日高市	8.7	53	長瀞町	11.4
6	吉川市	7.3	30	さいたま市	8.8	54	嵐山町	11.8
7	滑川町	7.3	31	蓮田市	8.8	55	小川町	11.8
8	草加市	7.4	32	宮代町	8.8	56	神川町	12.8
9	越谷市	7.4	33	狭山市	8.9	57	秩父市	13.3
10	新座市	7.4	34	上里町	9.1	58	横瀬町	13.9
11	所沢市	7.5	35	桶川市	9.1	59	美里町	15.2
12	鶴ケ島市	7.5	36	杉戸町	9.3	60	ときがわ町	15.8
13	志木市	7.5	37	鳩山町	9.5	61	皆野町	15.8
14	入間市	7.6	38	北本市	9.6	62	東秩父村	16.0
15	三郷市	7.6	39	吉見町	9.8	63	小鹿野町	17.3
16	坂戸市	7.7	40	蕨市	9.8			
17	上尾市	7.8	41	毛呂山町	10.0			
18	富士見市	8.0	42	熊谷市	10.3			
19	川口市	8.1	43	飯能市	10.3			
20	白岡市	8.2	44	行田市	10.4			
21	川越市	8.2	45	幸手市	10.5			
22	松伏町	8.5	46	本庄市	10.5			
23	東松山市	8.5	47	深谷市	10.6			
24	三芳町	8.6	48	加須市	10.6			

注　率は人口千人対である。

図－16　市町村別死亡率状況図



（3）乳児死亡及び新生児死亡

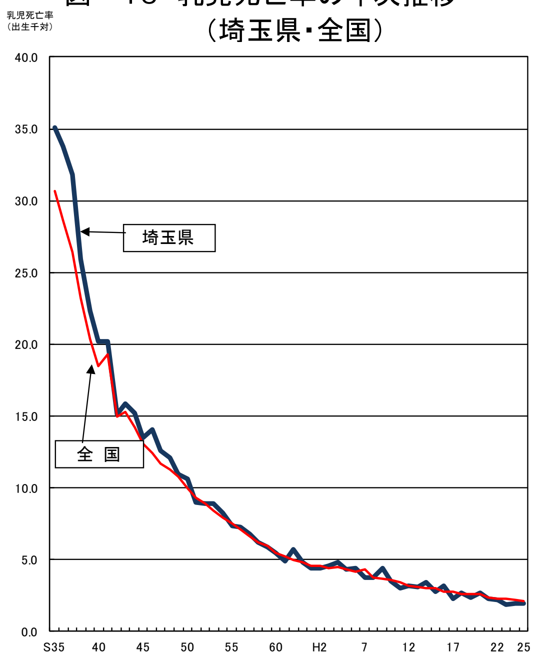
平成25年における乳児死亡数及び新生児死亡数、乳児死亡率（出生千人対）、新生児死亡率（出生千人対）はいずれも前年と同数（率）であった。具体的には、乳児死亡数が114人（胎）、乳児死亡率（出産千人対）は2.0、新生児死亡数は50人（胎）、新生児死亡率（出産千人対）が0.9である。

なお、全国は乳児死亡率2.1、新生児死亡率1.0であった。

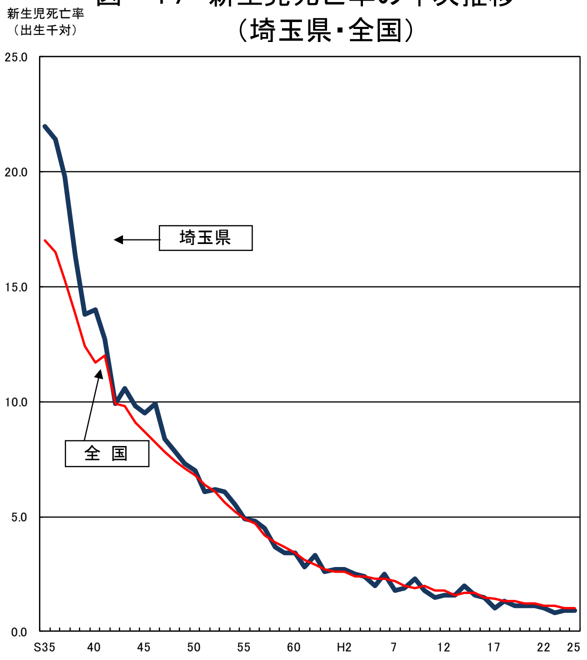
表－19　乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

			40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
乳児	数	埼玉県	1 348	1 232	1 015	558	369	280	257	210	137	133	109	114	114
		全　国	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616	5 054	3 830	2 958	2 450	2 463	2 299	2 185
	率	埼玉県	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4	3.8	3.2	2.3	2.2	1.9	2.0	2.0
		全　国	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6	4.3	3.2	2.8	2.3	2.3	2.2	2.1
新生児	数	埼玉県	931	869	673	369	228	168	124	105	61	62	48	50	50
		全　国	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179	2 615	2 106	1 510	1 167	1 147	1 065	1 026
	率	埼玉県	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7	1.8	1.6	1.0	1.0	0.8	0.9	0.9
		全　国	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6	2.2	1.8	1.4	1.1	1.1	1.0	1.0

図－16　乳児死亡率の年次推移
（埼玉県・全国）



図－17　新生児死亡率の年次推移
（埼玉県・全国）



（4）自然増減

平成25年の自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△2,794人で、前年の△2,194人より600人減少した。平成24年に戦後初めて自然増減数が減少に転じたが、平成25年も引き続き減少となった。

年次推移をみると、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えていたがその後急激に減少し、平成15年に20,000人を、平成20年から10,000人を割っていた。

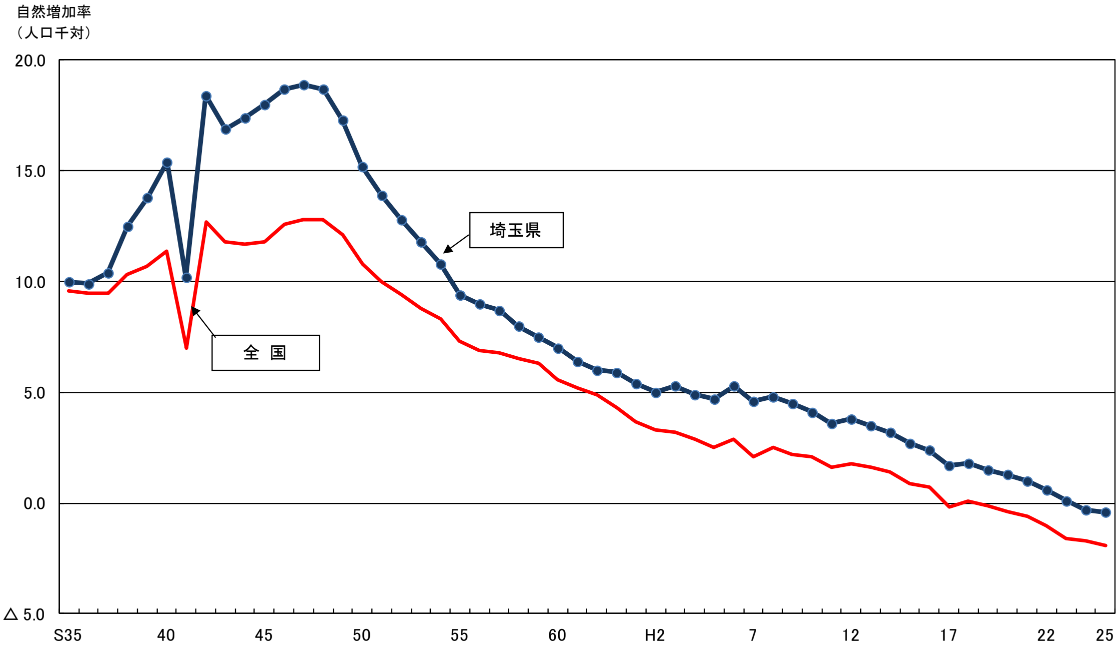
自然増減率は、人口千人に対し△0.4で前年より0.1ポイント低下した。全国の自然増減率は、△1.9であった。

県内で自然増減数がマイナスの市町村は、63市町村中45市町村であった。

表－20　自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
数	埼玉県	24 332	46 468	73 345	50 961	40 843	32 077	30 951	25 890	11 636	3 950	389	△ 2 194	△ 2 794
	全　国	899 442	1 123 259	1 199 165	854 088	679 294	401 280	264 925	228 894	△ 21 266	△ 125 708	△ 202 260	△ 219 128	△ 238 620
率	埼玉県	10.0	15.4	15.2	9.4	7.0	5.0	4.6	3.8	1.7	0.6	0.1	△ 0.3	△ 0.4
	全　国	9.6	11.4	10.8	7.3	5.6	3.3	2.1	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 1.6	△ 1.7	△ 1.9

図－18　自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では和光市(5.9)、戸田市(5.5)、朝霞市(3.9)の順である。
また、低率順では、東秩父村(△12.8)、小鹿野町(△12.1)、ときがわ町(△12.0)の順である。

表－21　市町村別にみた自然増減率(高率順)

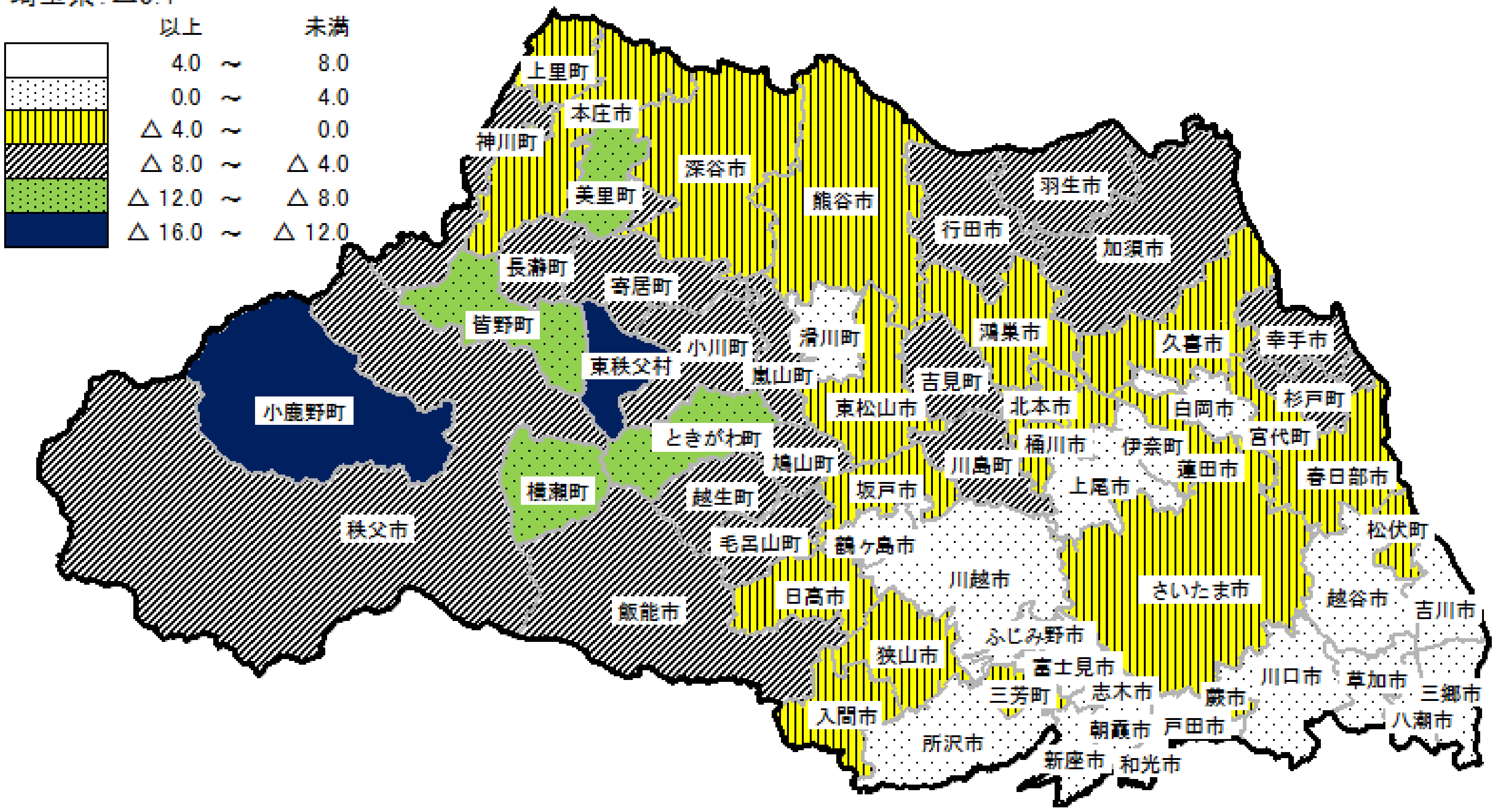
埼　玉　県

順位	市町村	自　然 増減率	順位	市町村	自　然 増減率	順位	市町村	自　然 増減率
1	和光市	5.9	24	蓮田市	△ 1.1	47	寄居町	△ 4.9
2	戸田市	5.5	25	東松山市	△ 1.4	48	羽生市	△ 5.1
3	朝霞市	3.9	26	春日部市	△ 1.8	49	毛呂山町	△ 5.5
4	伊奈町	3.0	27	鴻巣市	△ 1.8	50	越生町	△ 6.1
5	吉川市	2.4	28	三芳町	△ 2.0	51	秩父市	△ 6.2
6	志木市	2.4	29	蕨市	△ 2.0	52	鳩山町	△ 6.4
7	滑川町	2.1	30	久喜市	△ 2.1	53	長瀞町	△ 6.6
8	富士見市	1.7	31	桶川市	△ 2.1	54	川島町	△ 6.6
9	八潮市	1.6	32	日高市	△ 2.3	55	神川町	△ 6.7
10	新座市	1.2	33	狭山市	△ 2.3	56	嵐山町	△ 6.7
11	越谷市	0.9	34	上里町	△ 2.4	57	小川町	△ 6.8
12	草加市	0.9	35	松伏町	△ 2.8	58	横瀬町	△ 8.1
13	川口市	0.8	36	宮代町	△ 2.8	59	皆野町	△ 9.0
14	三郷市	0.5	37	深谷市	△ 3.1	60	美里町	△ 9.4
15	川越市	0.5	38	熊谷市	△ 3.1	61	ときがわ町	△ 12.0
16	所沢市	0.4	39	本庄市	△ 3.4	62	小鹿野町	△ 12.1
17	白岡市	0.3	40	北本市	△ 3.7	63	東秩父村	△ 12.8
18	上尾市	0.1	41	杉戸町	△ 4.1			
19	鶴ケ島市	△ 0.0	42	行田市	△ 4.2			
20	ふじみ野市	△ 0.0	43	加須市	△ 4.3			
21	入間市	△ 0.7	44	飯能市	△ 4.5			
22	さいたま市	△ 0.7	45	幸手市	△ 4.5			
23	坂戸市	△ 0.8	46	吉見町	△ 4.6			

注　率は人口千対

図－19　市町村別自然増減率状況図

全　国：△1.9
埼玉県：△0.4



(5)死　産

死産数は1,401胎で、前年より11胎増加した。

死産率は、出産千人(胎)に対し23.8で前年と同率であった。全国 (22.9)を0.9ポイント上回っている。

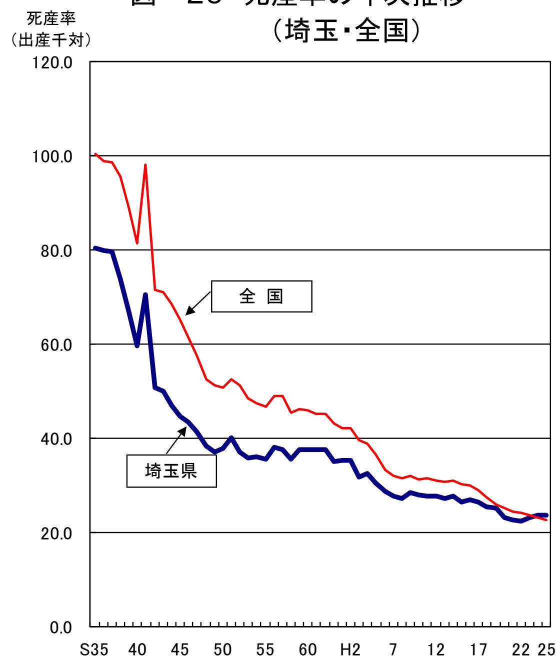
また、死産の内訳をみると、自然死産は697胎で前年より4胎増加し、人工死産は704胎で7胎増加した。

表－22　死産数及び死産率の年次推移

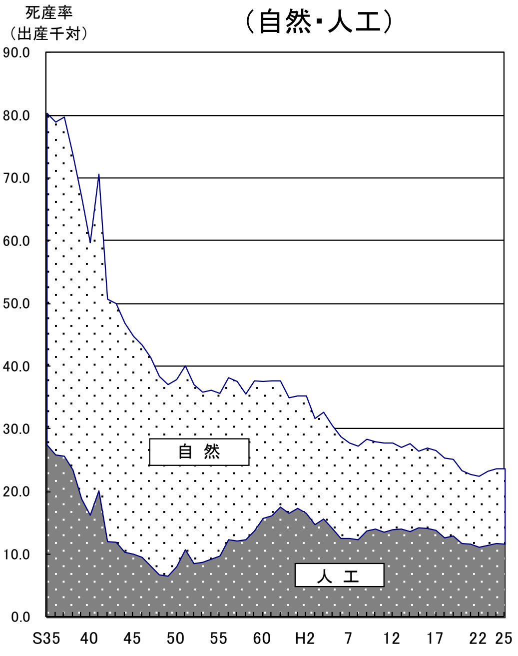
			S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
死産	数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 393	1 390	1 401
		全　国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	25 751	24 800	24 102
	率	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	23.4	23.8	23.8
		全　国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	23.9	23.4	22.9
(自然)	数	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	704	693	697
		全　国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	12 245	11 940	11 448	10 938
	率	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.8	11.9	11.8
		全　国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	11.1	10.8	10.4
(人工)	数	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	689	697	704
		全　国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	14 315	13 811	13 352	13 164
	率	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	11.6	11.9	12.0
		全　国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	12.8	12.6	12.5

注　率は出産(出生＋死産)千対

図－20　死産率の年次推移
(埼玉・全国)



図－21　死産率の年次推移
(自然・人工)



(6)周産期死亡

周産期死亡数は216人(胎)で、前年より33人(胎)減少した。

周産期死亡率は、出産千人(胎)に対し3.7で前年より0.7ポイント減少した。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。全国は埼玉県と同率の3.7であった。

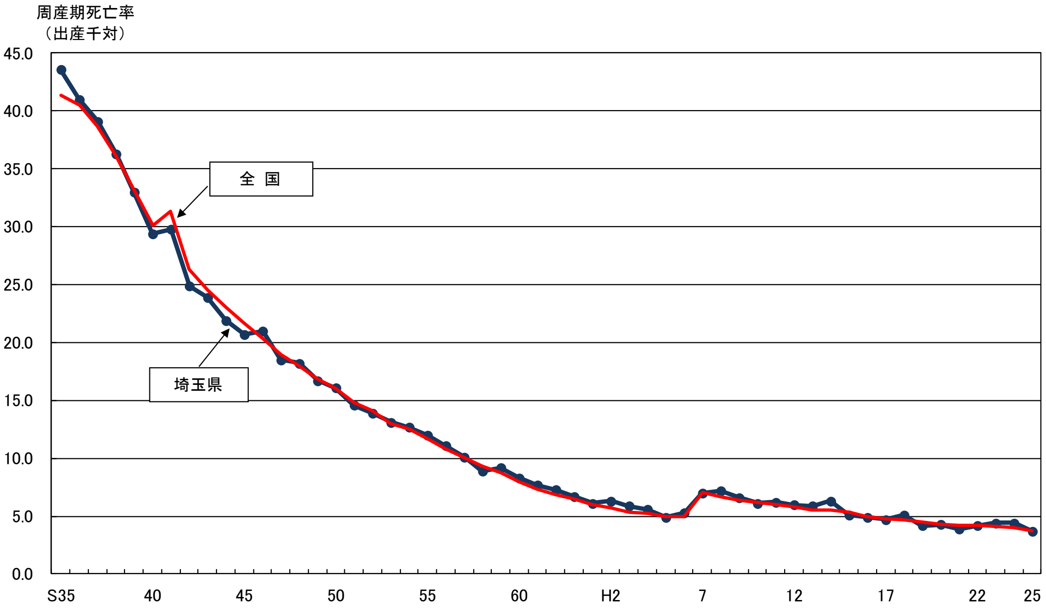
なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表－23　周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

			S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
周産期死亡	数	埼玉県	1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	255	249	216
		全 国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	4 315	4 133	3 862
	率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	4.4	4.4	3.7
		全 国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	4.1	4.0	3.7
後期死産	数	埼玉県	1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	224	207	179
		全 国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 491	3 343	3 110
	率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.8	3.6	3.1
		全 国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.3	3.2	3.0
早期新生児死亡	数	埼玉県	605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	31	42	37
		全 国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	824	790	752
	率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.5	0.7	0.6
		全 国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7

注:1　周産期死亡率・後期死産率は出産(出生＋後期死産率)千対である。
　2　早期新生児死亡率は出生千対である。
　3　後期死産率とは、妊娠満22週以降の死産である。

図－22　周産期死亡率の年次推移(埼玉県・全国)



（7）婚 姻

婚姻件数は36,279件で、前年の36,776件より497件減少した。

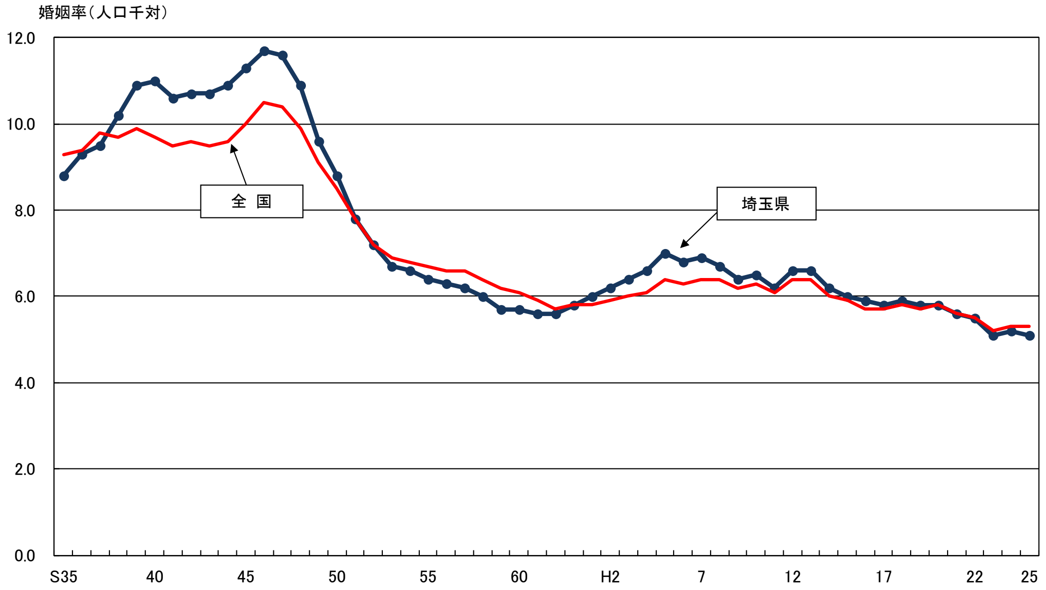
婚姻率は、人口千人に対し5.1で前年の5.2を0.1ポイント下回った。全国は5.3であった。

婚姻率の年次推移をみると、昭和46年の11.7をピークに低下し、昭和62年(5.6)をボトムに若干上昇したが、平成14年以降は低下傾向にある。

表－24 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
数	埼玉県	21 485	33 131	43 517	42 340	34 708	33 446	39 234	46 224	45 636	40 486	39 160	36 227	36 776	36 279
	全 国	866 115	954 852	1 029 405	941 628	744 702	735 850	722 138	791 888	798 138	714 265	700 214	661 895	668 869	660 613
率	埼玉県	8.8	11.0	11.3	8.8	6.4	5.7	6.2	6.9	6.6	5.8	5.5	5.1	5.2	5.1
	全 国	9.3	9.7	10.0	8.5	6.7	6.1	5.9	6.4	6.4	5.7	5.5	5.2	5.3	5.3

図－24 婚姻率の年次推移（埼玉県・全国）

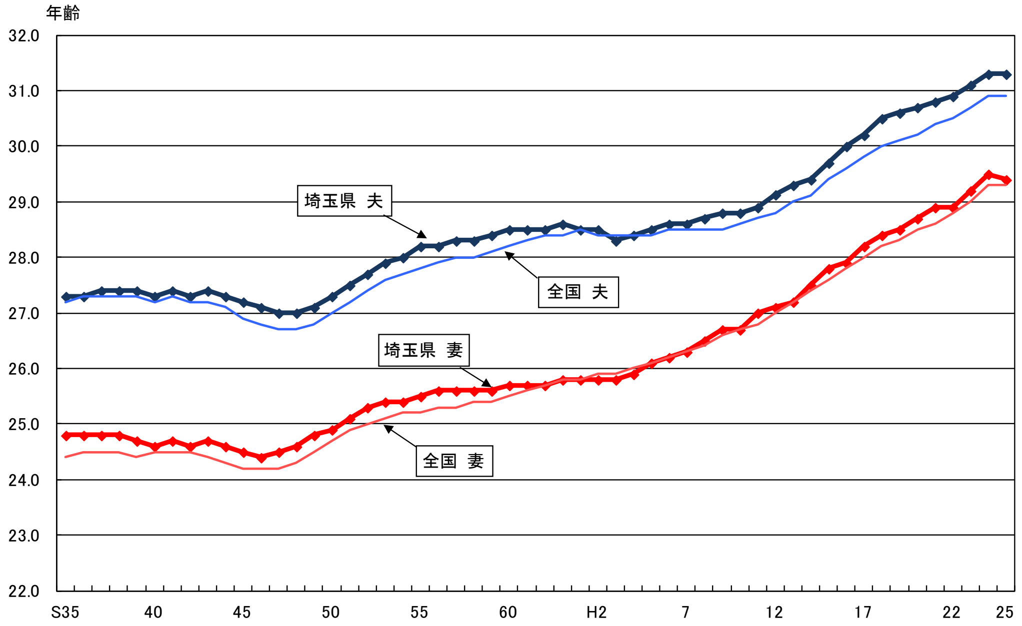


平均初婚年齢は、夫31.3歳、妻29.4歳で、前年と同じであった。

表－25　平均初婚年齢の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
夫	埼玉県	27.3	27.3	27.2	27.3	28.2	28.5	28.5	28.6	29.1	30.2	30.9	31.1	31.3	31.3
	全　国	27.2	27.2	26.9	27.0	27.8	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	30.7	30.8	30.9
妻	埼玉県	24.8	24.6	24.5	24.9	25.5	25.7	25.8	26.3	27.1	28.2	28.9	29.2	29.4	29.4
	全　国	24.4	24.5	24.2	24.7	25.2	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.0	29.2	29.3

図－24　平均初婚年齢の年次推移（埼玉県・全国）



（8）離　婚

離婚件数は13,138件で、前年の13,434件より296件減少した。

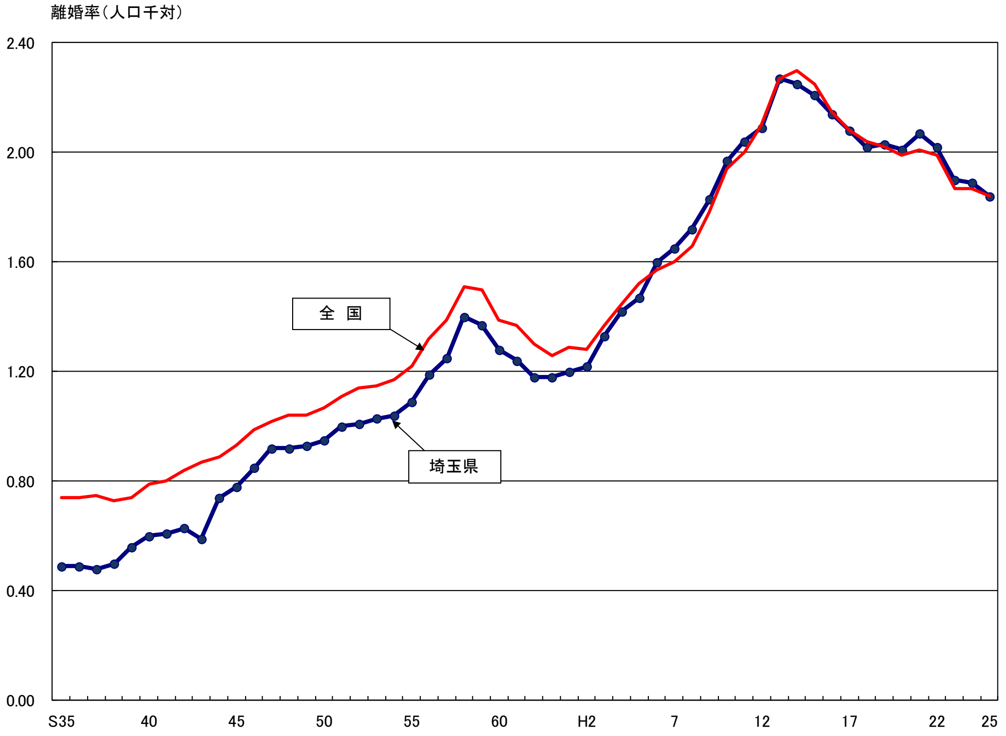
離婚率は、人口千人に対し1.84で前年より0.05ポイント下回った。全国は1.84で埼玉県と同率であった。

離婚率の年次推移をみると、昭和58年以降低下傾向にあったが、平成元年以降上昇に転じた。平成13年をピークに低下に転じ、平成21年は上昇したものの、平成22年以降再び低下傾向にある。

表－26　離婚件数及び離婚率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	23	24	25
数	埼玉県	1 182	1 797	2 990	4 584	5 901	7 494	7 775	11 062	14 368	14 521	14 325	13 547	13 434	13 138
	全　国	69 410	77 195	95 937	119 135	141 689	166 640	157 608	199 016	264 246	261 917	251 378	235 719	235 406	231 383
率	埼玉県	0.49	0.60	0.77	0.95	1.09	1.28	1.22	1.65	2.09	2.08	2.02	1.90	1.89	1.84
	全　国	0.74	0.79	0.93	1.07	1.22	1.39	1.28	1.60	2.10	2.08	1.99	1.87	1.87	1.84

図－25　離婚率の年次推移（埼玉県・全国）



(9)合計特殊出生率

合計特殊出生率は1.33で、前年の1.29を0.04ポイント上回った。全国は1.43であった。埼玉県、全国ともに前年よりも上昇を示した。

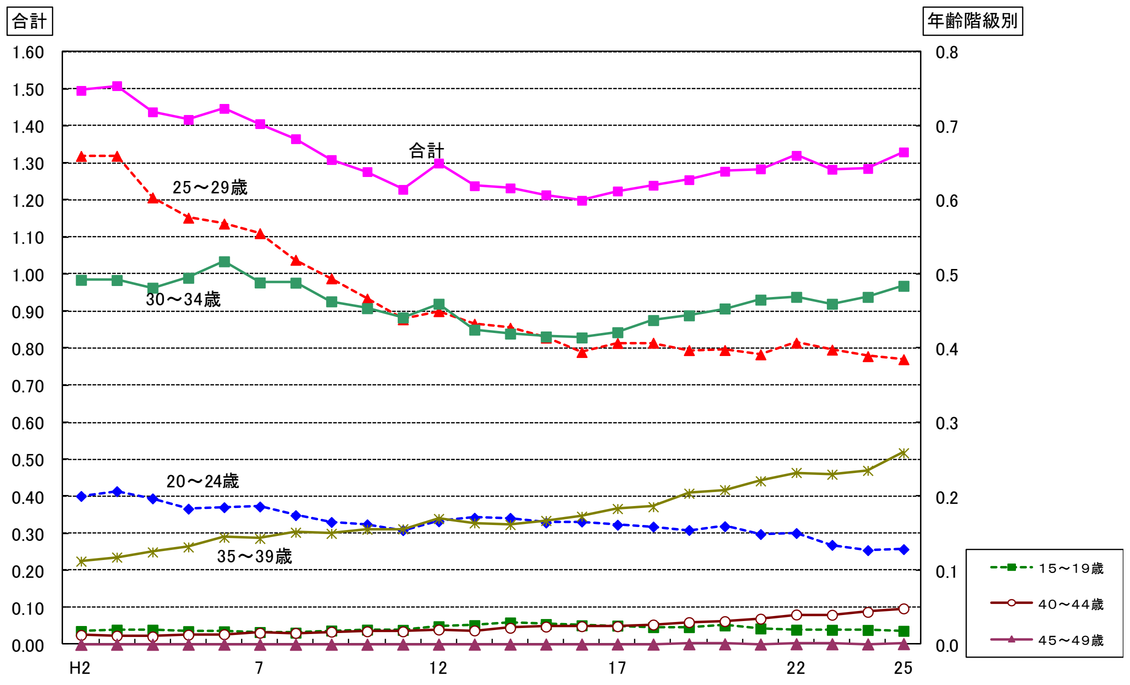
母の年齢階級別にみると、15～29歳の年齢階級で低下、30～44歳の年齢階級で上昇傾向が見られる。

表－27　合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別内訳)

		平成2年	平成7年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
埼玉県	合計	1.50	1.41	1.30	1.24	1.23	1.21	1.20	1.22	1.26	1.28	1.28	1.32	1.28	1.29	1.33
	15～19	0.02	0.02	0.02	0.0261	0.0297	0.0276	0.0259	0.0255	0.0234	0.0257	0.0217	0.0200	0.0198	0.0196	0.0184
	20～24	0.20	0.19	0.17	0.1711	0.1709	0.1645	0.1659	0.1617	0.1545	0.1596	0.1491	0.1504	0.1344	0.1273	0.1287
	25～29	0.66	0.56	0.45	0.4330	0.4276	0.4134	0.3949	0.4071	0.3974	0.3975	0.3917	0.4075	0.3981	0.3893	0.3851
	30～34	0.49	0.49	0.46	0.4250	0.4197	0.4148	0.4145	0.4216	0.4444	0.4536	0.4656	0.4693	0.4600	0.4693	0.4842
	35～39	0.11	0.14	0.17	0.1641	0.1619	0.1670	0.1731	0.1835	0.2042	0.2090	0.2209	0.2322	0.2298	0.2350	0.2587
	40～44	0.01	0.02	0.02	0.0189	0.0225	0.0241	0.0247	0.0246	0.0302	0.0315	0.0348	0.0404	0.0401	0.0440	0.0487
	45～49	0.00	0.00	0.00	0.0005	0.0005	0.0006	0.0005	0.0007	0.0010	0.0009	0.0006	0.0010	0.0010	0.0007	0.0011
全 国	合計	1.54	1.42	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29	1.26	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43

注　分母に用いた人口は「平成25年10月1日現在推計人口(5歳階級別総人口)」(総務省統計局)である。

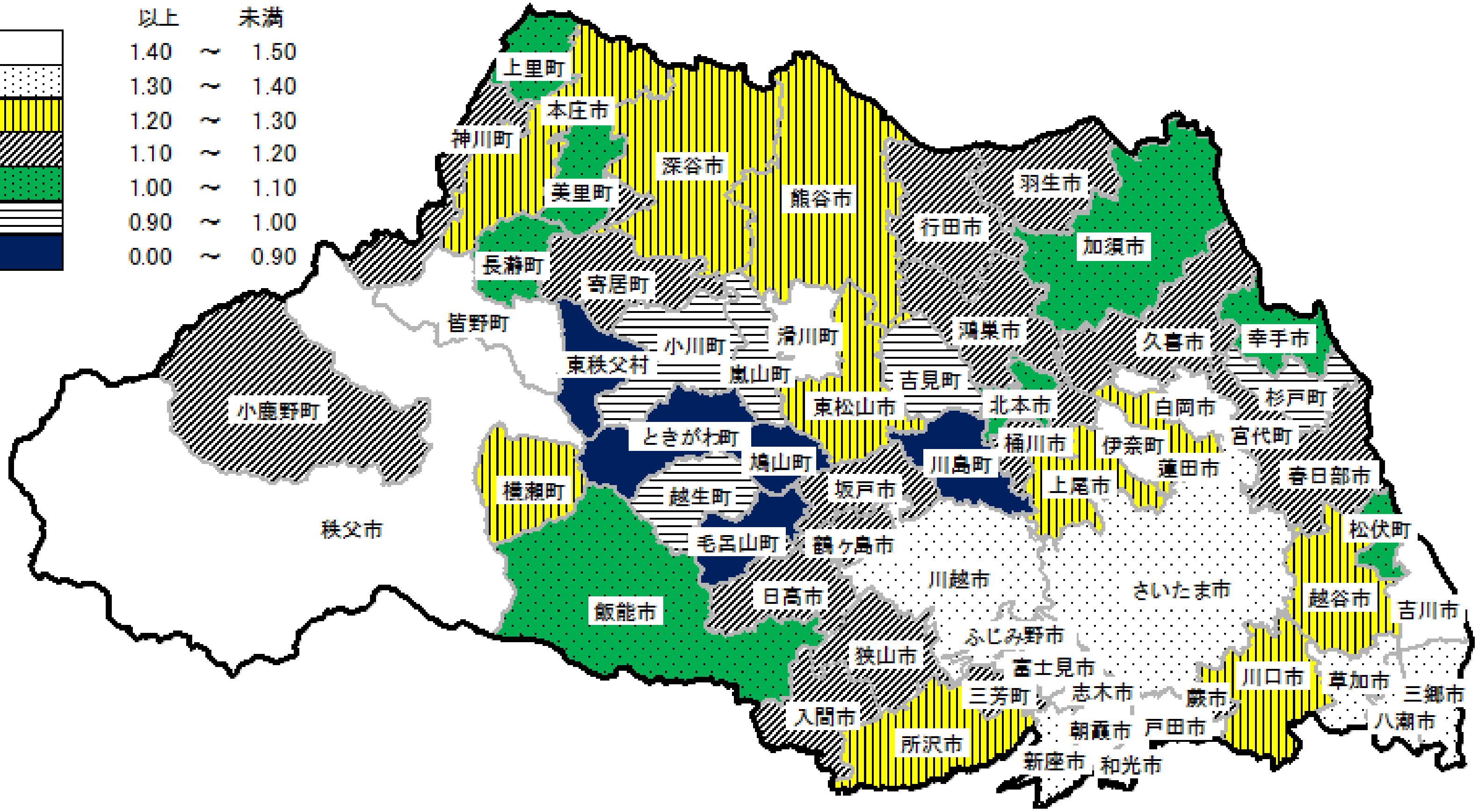
図－26　合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別内訳)(埼玉県)



図－27　市町村別合計特殊出生率状況図

全　国 1.43
埼玉県 1.33

以上		未満
1.40	～	1.50
1.30	～	1.40
1.20	～	1.30
1.10	～	1.20
1.00	～	1.10
0.90	～	1.00
0.00	～	0.90



平成２５年
埼玉県の人口動態概況（確定数）

編集発行
埼玉県保健医療部保健医療政策課
さいたま市浦和区高砂３－１５－１
電話　048-830-3230